

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号炉及び4号炉の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(148)、(181)」

2. 日時：令和5年9月11日(月) 16時00分～18時40分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員、松末技術参与

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 原子力土建部長
他7名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 基準地震動の策定について
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち地震以外の要因による津波について (コメント回答)
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち地震以外の要因による津波について
- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁地震津波審査部門の鈴木です。それでは時間になりましたので 浜原子力発電所基準地震動の策定について、
0:00:11	ヒアリング 2 回目ですかね。
0:00:13	行いたいと思います。資料は、一部ですかね、イセ、A種類いただい ますので、まずこちらについて主には、前回からの修正点ですかね。
0:00:25	中心に説明をまずお願いします。
0:00:29	中部電力の尾川です。基準地震動の策定のヒアリングということで 2 回 目のヒアリングをお願いいたします。
0:00:37	前回 8 月 30 日の日にヒアリング、
0:00:40	させていただいております、前回からの変更点を中心にご説明をさせ ていただきます。
0:00:45	説明時間およそ 25 分ぐらいとなっておりますのでよろしく願いいたし ます。
0:00:52	中部電力の石川ですよろしく願いいたします。
0:00:56	基準地震動の策定につきまして前回ヒアリングから資料の修正追加を 行いましたので、変更点を中心に説明をしていきます。
0:01:06	ページ飛んで 3 ページに目次を示します。
0:01:09	大きな構成としましては、前回ヒアリングから変更ございません。
0:01:15	4 ページから 1 章の概要について修正点を説明していきます。
0:01:21	まず、5 ページ 6 ページに策定方針を示しておりますけども、5 ページに は、審査ガイド等の記載とそれを踏まえた浜岡の方針の記載を今回追 加しております。
0:01:34	6 ページの方は、前回もお示しました浜岡の基準地震動その策定に おける特徴と、それを踏まえた基準地震動の策定方針で、
0:01:44	特徴とそれを踏まえた策定方針の記載の順番を考慮した整理を行って 参りました。
0:01:53	7 ページは基準地震動の策定について、外の同 5.2 節と、それを踏まえ た浜岡の方針を説明するページを、を追加しております、
0:02:03	続く 8 ページの策定フローを 9 ページの基準、地震動の顕著な増幅が 見られない、敷地西側で用いる基準地震動Ss1 と、
0:02:12	10 ページの増幅が見られる敷地東側で用いる基準地震動Ssの策定結 果については、基本的に変更ありません。
0:02:24	11 ページからは、8 ページにポイントとして示しております四つの項目 について、概要を順に示しております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:32	殊、11 ページ、12 ページは一つ目の顕著な増幅を踏まえた基準地震動の策定の概要で、こちらは変更はございません。
0:02:42	13 ページからは二つ目の応答スペクトル法による、基準地震動の策定の概要です。
0:02:49	13 ページの設計応答スペクトルの設定については、断層モデル法による評価結果の形状を踏まえて設定すると、説明している部分につきまして、記載を修正しております。
0:03:01	具体的には上段箱書きの下 2 行ですけども、断層モデル法による評価結果について、応答スペクトルの形状のごく短周期の特徴を S_s-D に反映するとともに、
0:03:13	各地震動評価結果を S_s-D が概ね包絡する地震動レベル、SBO全周期体で上回ることがなく、 S_s-D を上回る周期が一部となる地震動レベルで、
0:03:24	S_s-D を設定と、具体的に記載いたしました。
0:03:29	14 ページの模擬地震動の作成に用いる地震規模の設定については、もともと、東北地方太平洋沖地震の観測記録に基づく知見とオノられておる 2002 の方法の最大値を踏まえて、M8.5 で設定すると。
0:03:45	いう、説明をしておりましたがこれにつきまして、8.5 で設定するという結論に至るまでの間の説明が抜けておりましたので、そちらを箱書きと大府検討フローに追加して記載を修正しております。
0:03:59	詳細のページも追加しておりますので後程説明いたします。
0:04:05	15 ページからは三つ目の断層モデル法による基準地震動の策定の概要です。
0:04:11	15 ページは大きな変更はありませんけども、箱書き二つ目の丸に記載している通り、 S_s-D を上回るケースのうち、 S_s-D を上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動を、
0:04:23	断層モデル法による基準地震動として設定することを、フローと図で説明しております。
0:04:30	この断層モデル法による基準地震動の設定に関しまして、16 ページ、資料を追加しております、
0:04:37	断層モデル法による基準地震動を選定するにあたり、抜け漏れなく選定ができていることをどうやって検討確認しているかの説明をポンチ絵で補足しております。
0:04:49	飛んで 18 ページから四つ目の免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定の概要です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:57	ここでは、まず、18 ページ 18 ページに免震ガイドとの対応とそれを踏まえた浜岡の方針の記載を追記、生活するとともに、
0:05:08	19 ページの系統方針のページに示す箱書きと検討フローについて免震ガイドを踏まえて、一部変更を行いました。
0:05:17	具体的には④としまして基準地震動を
0:05:21	やや長周期の応答スペクトル、継続した時間の検討の項目を追加し、
0:05:27	また⑤については、国土交通省の技術的助言の参照としております。
0:05:33	20 ページの検討結果もこれと合わせて修正をしております。詳細については後程説明いたします。
0:05:43	飛んで 23 ページです。
0:05:47	当初申請からの変更点につきまして上段の設計用模擬地震動の記載についてですけれども、太字で示す、2011 年東北地方太平洋沖地震の観測記録に基づく知見の検討の有無について、
0:06:01	今回記載を追加いたしました。
0:06:05	1 章の修正点は以上になります。
0:06:09	続きまして飛んで 26 ページから、2 章の基準地震動の策定方針における変更点について説明をしていきます。
0:06:19	まず、2.1、基本方針についてです。こちら、27 ページの策定方針と 28 ページのフローは変更なく、
0:06:28	29 ページに、今回ガイドとの対応を表形式で示すページを追加いたしました。
0:06:36	次に 30 ページからは、2. に行き、地震動の顕著な増幅を踏まえた基準地震動の策定方針についてです。
0:06:46	こちら前回ヒアリング資料で示した資料に変更はありませんけれども、35 ページから 37 ページに、
0:06:53	現地の増幅の反映方法に関連する既往の審査資料の方を追加しております。
0:07:02	飛んで 43 ページからが、2.3 の免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定方針についてです。
0:07:16	44 ページの検討概要は 1 章の概要の再掲で先ほど説明した通り、箱書き、検討フローについて、免震ガイドを踏まえて、一部変更しております。
0:07:29	45 ページからが、検討フローで示す各項目の詳細説明になります。
0:07:35	ここでは項目ごとに最後にまとめを形に資料の構成を見直してございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:42	まず 45 ページからの項目の一つ目免震構造物の周期特性を踏まえ、着目するやや長周期の検討については、
0:07:50	基本的に変更なく、免震構造物の保有周期の 2 倍程度の周期 5 秒までを着目するやや長周期と評価しております。
0:07:59	47 ページからは、やや長周期に着目した検討用地震の確認についてです。
0:08:06	前回ヒアリングでもご説明した通り、短周期では長周期ともに、敷地の地震動への影響が大きい地震として地震規模が大きい内閣 2012 による南海トラフで想定される最大クラスの地震、Mw9.0 を
0:08:20	検討地震に選定しておりますけども、
0:08:23	この選定に当たりまして内閣 2015 の最大クラスの徴収地震と比較を行い、
0:08:29	加来 2012 の方が大きいことを、やや長周期の地震動に影響する強震動生成域の地震モーメントや、
0:08:37	ハイブリッド合成法による地震動の比較により確認をしておりますので、
0:08:41	今回、それを 1047 ページの
0:08:45	二つ目の箱書きに記載するとともに、関連する既往の審査資料を 49 ページから 56 ページに追加いたしました。
0:08:56	説明は割愛させていただきます。
0:09:00	飛んで 57 ページの敷地から離れているが、地震規模の大きな地震の確認と、58 ページの、やや長周期に着目した地震動評価の確認については変更なく、
0:09:12	59 ページにまとめを追加しております。
0:09:18	60 ページに示す三つ目、必要に応じたの施設とは別に基準地震動策定の項目のページは、記載の仕方の変更のみで、耐震設計等免震設計で共通の基準地震動を用いることと、
0:09:32	免震構造物が敷地西側のSs1領域にイセ、設置維持していることから、
0:09:38	基準地震動としてSs1を用いることを記載しております。
0:09:44	61 ページから、四つ目の基準地震動のやや長周期の応答スペクトル、継続時間の確認についてです。
0:09:53	明示設計に用いるSs1-Dについて今回まず 61 ページに、断層モデル法の、やや長周期の応答スペクトルとの比較確認を説明するページを追加し、
0:10:05	箱書き矢印で示す箇所に、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:07	Ss1-Dと設計応答スペクトルはやや長周期の応答スペクトルも含め、断層モデル法による評価結果の応答スペクトルの地震動レベルを踏まえて設定している。
0:10:18	あとは断層モデル法による評価についておいてやや長周期の応答スペクトルがSs1-Dより大きいケースについては、断層モデル法による基準地震動の策定において考慮していることを、
0:10:30	確認と、記載をしております。
0:10:33	また 62 ページの継続時間の確認については、
0:10:37	着目する注記がやや小周期であることから、加速度、前回の加速度時刻歴揭示の比較から、
0:10:44	施設のやや長周期の応答への影響が大きい、速度 8Kでの比較にを変更いたしました。
0:10:51	この速度は形の比較については、他の断層モデルSsとの比較を行っており、
0:10:57	こちらの資料は補足説明資料②の最後に追加をしておりますので、ご確認ください。
0:11:07	40、60、64 ページからは五つ目の国交省の技術的助言の参照についてです。
0:11:15	ここではまず、静岡市Z湾の基整促波との比較を、Ss1 のdで代表して比較確認していることを、64 ページ、二つ目の箱書きに追記いたしました。
0:11:28	また、静岡市ZWANの基整促波の継続時間について、免震ガイドの検討チームでの久田先生の資料を引用しまして、
0:11:37	検討チームに於いて速度時刻歴掛け時刻歴発見に基づき、
0:11:41	静岡の主要動は 100 秒から 200 秒程度と、説明されていることを踏まえた説明に変更しております
0:11:50	65 ページに応答スペクトルとは形の比較を示しておりますけども、は形の比較については先ほどと同様に、は、速度パッケージの比較に変更いたしました。
0:12:01	Ss-DがDの方が応答スペクトルが十分に大きいことを速度時刻歴や葉系において継続時間が長いことなどを確認し、結論としては、下段に記載している通り、
0:12:13	基準地震動Ssが保守的な地震動であることを、
0:12:17	あと、
0:12:18	ます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:20	飛んで 67 ページが検討結果のページということで概要のページを再掲しております。
0:12:27	68 ページには、免震ガイドの対応を表形式で
0:12:31	いたしました。
0:12:37	2 章の説明は以上になります。
0:12:40	続いて 70 ページから 3 章の基準地震動の策定における修正箇所について説明をしていきます。
0:12:49	ページ飛んで 73 ページから、
0:12:53	が、3.1 の応答スペクトル法による基準地震動についてです。
0:12:59	まず、74 ページからの設計応答スペクトルの設定の説明については、
0:13:05	医長の概要での修正を 74 ページの概要と、以降の詳細説明にも反映をさせていただきます。
0:13:15	ページ飛んで 86 ページからの模擬地震動の設定の説明においては、
0:13:22	86 ページは基本前回の資料のままで 87 ページの 6 地震動の作成に用いる地震規模の設定については、
0:13:30	医長の概要での修正を反映させていただきます。
0:13:34	88 ページにはプレート間地震の応答スペクトルに基づく地震動評価に用いた最大規模の変更について、その経緯をまとめた資料を追加しました。
0:13:44	簡単に説明します。
0:13:47	当初申請から 685、5 回の会合までは、地震規模が Mj8.5 を超えるケースは、評価結果を参考扱いとしておりました。
0:13:57	そのあと 685 回会合で吹き出しで示すコメントがありましてその回答を行った 745 回の会合から、地震規模については、下段箱書きの二つ目の丸に記載しているように、
0:14:10	先行サイトの審査を踏まえ、東北地震の観測記録に基づく地形を確認し、
0:14:16	またアノtheイトウ 2002 の適用範囲の地震の最大規模 Mj8.5 も踏まえて、
0:14:22	サトウ 1989 に基づき算出した地震規模が Mj8.5 を超えるモデルは震源モデルは、
0:14:28	Mj8.5 としての座の方法による地震動評価を行うように変更をしております。
0:14:37	次に 89 ページから 92 ページには、模擬地震動の作成に用いる地震規模の設定について、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:44	先ほどの 87 ページの説明内容をお詰めし、図で示しながら詳細に説明する資料を追加しています。
0:14:53	簡単に説明します。
0:14:55	上段黄色の箱書きに示す通り、模擬地震動の作成に用いる地震規模 M1 は、継続時間への影響が大きい、南海トラフの最大クラスのプレート間地震に基づき、
0:15:05	予定をします。
0:15:07	などの方法ではこの地震規模により、中央の図のフラットな部分で示す主要動の長さが決まりまして、この長澤地震規模 M が大きいほど長くなります。
0:15:18	この地震規模については下段に示す通り、南海トラフの最大クラスのプレート間地震と同じ Mw9.0 クラスの、東北地震に関する内閣 2012 の知見で、
0:15:29	その地震規模 Mw が 8.2 から 8.3 程度であったとされておりまして、
0:15:35	ノダの方法で用いる mJ は M8 程度で飽和するという特性があることを踏まえると、今発展より地震規模を小さく、小さい値を設定するということが考えられます。
0:15:47	90 ページ、左上に行きましてここで浜岡の特徴としましては、敷地が震源断層に近いということによりまして、
0:15:57	右の図のは形の図で示す通り、敷地の地震動は敷地から離れた強震動生成域の影響は小さく、
0:16:04	敷地近傍の強震動生成の影響が支配的であることから、
0:16:10	東北地震の時の日本海溝沿いすいませんこちらちょっと記載が間違っておりますけども日本海溝沿いの
0:16:16	沿岸部の記録に比べまして、共振分の継続時間は短く考えられます。
0:16:23	そのため東北地震の知見を参照しまして地震規模を設定することは、安全側と考えられますけども、
0:16:30	黄色の箱書きで記載するします通り、南海トラフ沿いでプレート間地震の観測記録が十分に入れられていないことを踏まえ、
0:16:38	N の方法の最大値、Mj8.5 に基づいて、地震規模を 8.5 とを設定をいたします。
0:16:46	そのように M を設定して作成した実施 M 地震動の保守性につきましては、Mw9.0 のプレート間地震の断層モデル法による評価結果との比較による保守性の下
0:16:58	にをしてするとしておりまして、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:00	そちらの資料が今回の資料でいうと、97 ページ、98 ページになります。
0:17:07	こちらについては前回の資料からSs1-DとSs-N2 のDが順番に並べるように、資料の順番を見直しております。
0:17:17	3. 一節の説明については以上になります。
0:17:24	続いて、
0:17:28	100 ページから、3.2 の断層モデル法による基準地震動における修正箇所について説明をします。
0:17:35	1 ページ飛んで 102 ページから、基準地震動Ss1 の説明が始まります。
0:17:41	まず 100 万、103 ページで、Ss、Dを上回るケースを考慮することを基本とするという策定方針に従って、
0:17:50	すべての検討地震の評価結果のうち、Ss1-Dを上回るケースを青線で示しております。
0:17:58	ここで 104 ページに、Ss1-Dを上回らないケースを確認する資料を 5 回追加しております。
0:18:06	こちらの資料では、上の図に、黒で示すSs-Dと灰色で示すSs-Dを上回らないケースの応答スペクトルの比較。
0:18:16	下段に、Ss1-Dに対する、Ss1 の理由を上回らないケースの応答スペクトルの比率の図を示しております、
0:18:25	下の図では、比率が 1 を超えるケースがないことで、Ss-Dを上回るケースがないことを確認できるものとなっております。
0:18:36	続いて 105 ページでは、Ss1-Dを上回るケースのうち、Ss1-Dを上回る周期で最大の応答スペクトルとなる地震動
0:18:45	を赤線で示しております。
0:18:49	ここでもう 106 ページに、Ss1-Dを上回る周期で最大の応答スペクトルとならない地震動を確認する資料を、先ほど、先ほどと同様に追加いたしました。
0:19:02	こちらの資料を最大の応答スペクトルとならない地震動について上段に、黒線のSs1-Dと赤線の断層モデル法による基準地震動Ss1-1 から、
0:19:13	1-23 との応答スペクトルの比較と、
0:19:17	下段に、Ss1-DとSs1-1 から 1-23 の応答スペクトルの最大値に対する比率を図で示しております、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:26	下の図では、比率が1を超えるケースがないことで、これらのケースが最大の応答スペクトルとならないことを確認できるものとなっております。
0:19:36	107 ページ 108 ページ 109 ページは基準地震動Ss1 断層モデル法による基準地震動Ss1 のまとめで、前回資料から基本的には変更はありません。
0:19:48	同様の修正を、110 ページからのSsについても行っております。
0:19:58	118 ページ以降の震源を特定せず策定する地震動による基準地震動をと4章のまとめ。
0:20:05	あとは補足説明資料につきましては、先ほど説明した通り補足説明資料②で、そこだけの比較のページを最後に追加しておりますけども、それ以外に大きな変更はありません。
0:20:19	説明は以上になります。
0:20:24	を、
0:20:26	はい規制庁スズキで説明ありがとうございました今回ちょっと2回目の
0:20:32	ヒアリングということで、まず5ページからですかね一応ここは解釈べきによる基準と、
0:20:43	要はガイドの、ここはいわゆるガイドのところ審査の基本方針みたいなところですね、大枠の
0:20:50	方針に対して二つのことが書いてあって一つ目は、当たり前といえば当たり前、裏返したように特定してダンスART応答スペクトル断層モデル特定せずの作文基準値と策定しますよと。
0:21:04	いうことで、
0:21:06	刀禰これ後まで読む等、わかるんですけど二つ目のところが免震構造物をせ、
0:21:11	てしていること。
0:21:13	から設定なのかというのはさておき、ここなんかやや長周期に着目して免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定を行うとなっていて、
0:21:24	この段階までだと、何かSsL作るように、非常に、
0:21:29	読めるんですよ。
0:21:33	まずやや長周期っていうのがこれ多分次のページもやや長周期ともにとかって出ていて、
0:21:40	一つ目のポツですね、6 ページの一つ目のマル。
0:21:44	短周期ナカポツやや長周期とも2と言っていて、これ右を見ると、右の図を見ると周期5秒までしか書いてないんで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:52	何となくここもは周期興業までのことをやや長周期というようにしてるのかなあと、後ろを見ていくと、今度は何か着目するやや長周期っていうナカマた定義があって、そこは確かに02秒から5秒だったかな。
0:22:08	っていうのがあって、何かこう裸で使ってるやや長周期とか、そのどこら辺までのものを何回としてこういう使ってるのかが、
0:22:17	すべて説明を聞くと、何かやや長周期って5秒までのことを言ってるんだなというふうに、後々わかるんですけど。
0:22:25	ちょっとそこら辺がね非常にわかりにくい所見で説明聞くとわかりにくいかなっていうのがあって、
0:22:36	これ、もう何ですかね、5ページ目で言ってる長周期に着目しているのは、あんまりその周期5秒までっていうのはいいとしてないんですけどこれ。
0:22:46	中部電力の岩瀬です。鈴木さんのご指摘の通りで、ハダハダカセという括弧書きで書いていない、やや長周期については、ガイドが言ってる通り、
0:22:58	やや長周期をイメージしてましたので、
0:23:01	確か10秒ぐらいまで、
0:23:04	をイメージしたやや長周期という認識で、この段階では施設の固有周期等を考えずにもう少し広めの意味合いで使ってるものという認識で使っていました。
0:23:16	ちょっと確かにわかりにくいのはわかりましたので、
0:23:21	あと、まず5ページのところの、やや長周期っていう言葉を、
0:23:26	ここで、
0:23:28	出したのは、
0:23:31	規則の解釈の別記にやや長周期という言葉があったので、そこを受けた検討をしますという以上に、この段階では意義が、
0:23:39	長く、
0:23:43	6ページの浜岡の特徴にいて最後の方で、施設の固有周期、
0:23:48	の話が出てきたところから少し切り替わるのかもしれないんですけども、この段階では、まだ後でや、定義した着目するやや長周期の話は、
0:24:00	ここでは説明してるつもりはありませんでしたので、
0:24:03	ちょっと今どうするかぱっと思い浮かびませんが、ちょっと誤解のないように整理はしたいと思います。以上です。
0:24:12	あ、わかりました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:14	基本的に、特にやや長周期とだけ書いてあるものは、一応ガイドなり基準なりで言ってる、添 10 秒ぐらいまでのものだと思って読んでおけばいいわけですね。
0:24:25	基本は中部電力の岩瀬その通りです。はい、わかりました。
0:24:31	大江でもう 1、
0:24:34	なのでやや長周期に着目し、5 ページですね。
0:24:38	免震構造の採用を踏まえた基準地震動の策定。
0:24:43	ただ一応ここも意図してるのはこの免震構造の採用を踏まえたって言うてるのがあらゆる
0:24:49	どの周期のもっと長いようなものまでというよりも、多分ここで左で出てる免震構造物※2 について、
0:24:57	この多分当該免震構造物の、
0:25:00	上で、解釈別記 2 でいうと多分その周波数特性なんで一応その固有周期に着目して、
0:25:07	今日必要があれば真木作りますよという検討要否の検討をしますっていうことなんですかねちょっとそこが、
0:25:15	を基準にし、免震構造を踏まえて基準地震動の策定を行うって確かにこのまでだと。
0:25:22	何か別途のものを作るのかなあとって、
0:25:26	次に行くとか何かそうでもなさそうだっていうふうになるんですけどここもちょっと 5 ページ 6 ページすぐ説明するんで、ここは、
0:25:35	この通りでいきますというのでもいいし、
0:25:38	1 としてはこの段階はあんまり、その要否だとか、ベッドを作る必要性がないかどうかというところは特段 5 ページでは触れてないちゅう形なんですかね、説明上は。はい。中部電力の岩瀬です。
0:25:51	もう、ここもご指摘の通りなんですけど、
0:25:56	ここで決めつけた記載をしているつもりはなくてですね、やや長周期に着目して免震に使う基準地震動だということも踏まえた検討をし、アノ目、基準地震動の策定を
0:26:07	するよという制限をしただけのつもりだったんですけども、ちょっと誤解を招きかねない表現だというのはわかりましたので、
0:26:14	規則の
0:26:17	ある意味、記載そのものをちゃんとこの通りに検討しますよということがあるミギタ位だけは言いたいだけですのでもっとその辺、表現を適正化したいと思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:26:29	はい、わかりましたこの段階では一応、延伸構造物踏まえて必要があれば作りますよっていう、そういうことですね。はい。
0:26:35	次がはい。6 ページ、一応、ここも、
0:26:43	南海トラフ最大クラスのプレート間地震が短周期、中ポツやや長周期ともにとってる、このやや長周期も一応これは、
0:26:52	10 秒ぐらいまでなんですかね。
0:26:54	そうすると、このなんか右下の図の方だと 5 秒までしかなくて、
0:27:00	ちょっとこれもねどっちのことを言ってるのかなってのが冒頭、聞いたんですけど。
0:27:05	んところが一瞬。
0:27:07	確かに最終的に必要なのは 5 本マエダって結論までいくとそういうことになるんですけど、ここで言ってるやや長周期ともに敷地の地震動への影響が大きい地震であるというのは、
0:27:17	ここは一応 10 秒ぐらいまでツツミとけばいいですか。
0:27:22	中部電力の岩瀬です。あまり、
0:27:26	一般的なやや長周期をイメージして書いていたので何秒というよりは、ある意味 1 秒より長いところ、
0:27:34	ぐらいのどこどこかまでかは、この中で分け議論をせずに、短周期だけじゃなくてやや長周期も、
0:27:41	大きいよという以上の意味は、この段階では言っていないつもりでした。
0:27:49	わかりました。これは別にあんまり特段、なんていうか、中期こだわって書いてるというよりは、この右下の方はだから最終的に作った基準地震動が
0:27:59	コンマ 02 から 5 行までなんで、結果をそのままペタッとはつけてるだけってことですね。
0:28:06	わかりました。次が、低速顕著な増幅の話と免震構造物を作るというのがサイドの特徴がありますと。
0:28:16	はい。策定方針で、
0:28:20	一つ目は、同じことの繰り返しで、
0:28:26	二つ目が、断層モデルを用いた手法の結果県を重視します。これが上の一つ目と対応して、
0:28:36	二つ目が、上の二つ、三つ目が上の二つ目と対応して一番下が眉の一番下と対応。
0:28:44	はい。
0:28:45	これ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:50	一般的に言うとは別途のものは作らずに、もともとの基準地震動を用いますと、はい。
0:28:58	次の7ページですねこれはもう少し応答スペクトル断層モデル特定せずのガイド、
0:29:06	と比較して端的に書くということ、
0:29:12	これ上のガイドのところですね応答スペクトルだと、一行目は、応答す検討用地震ごとに評価した応答スペクトルを下回らないように作成する必要があり、
0:29:24	その裏返しに下書いてあって応答スペクトルに基づく地震動評価が包絡し、
0:29:32	そのあと断層モデルを用いた手法によるのはこれはサイトの特性を踏まえてってことなんですけど継続時間、
0:29:39	振幅包絡線はK地震動の継続時間に留意し設定ってところは、
0:29:45	何かここだけ、上にガイドが書いてある分だけ、何か抜けてるような気もするんですけど。
0:29:51	小浜。
0:29:57	中部電力の岩瀬です。ちょっと省略してしまったという、だけの話なんですけど、
0:30:05	基本的にまず応答スペクトルの、
0:30:07	形状のところの話はまずメインで説明しようという形で8ページのフローを作った関係もあって、
0:30:14	7ページに今、もう同じ記載をという趣旨で、こういう整理にしてるんですけども、ここ、上との対応関係が確かに気になるという視点がありますので、その点は追記したいと思います。
0:30:28	はい、そんな題材だ長々としたことを書く必要ないと思いますけど、
0:30:33	今日ガイド等で対照してっていうことであればですね、
0:30:36	次が断層モデルの方は、一応、
0:30:41	別途評価した応答スペクトルの関係を踏まえ、頭痛で、とりあえず比較をしますと、
0:30:47	なお書きが全周期体にうたって、有意が終わる場合は音スペクトル代表させるなんてその裏返しですよ。
0:30:55	ここは船幸祭なってるようにSs-Dを上回る中から上回る周期で最大のものを選びますと。
0:31:03	特定せずは、
0:31:11	うん。うん。うん。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:12	これは模擬地震動の、
0:31:15	作成の話は特定せずの評価のところ、一度、
0:31:19	説明してるんで、
0:31:22	素行、
0:31:23	それとは評価結果の米印かな、複数の検討をしてますよというのは、説明済みの内容であると。はい。
0:31:33	次はその話を
0:31:38	フローにして最後結果が、
0:31:41	90 ということで、
0:31:46	次があるかな。増幅そのものが、増幅の件。
0:31:53	東郷。
0:31:55	11 ページからで、これはいいのかな。
0:32:01	5 号の周辺の方は増幅ありと、増幅なしの方両方とも、
0:32:08	比較しますと、はい。
0:32:10	13 ページが断層、応答スペクトルのところで、
0:32:14	これが 1 ページで書くと、なかなか、
0:32:20	一つ目は、1 一つ目のマルは当たり前ですね、崩落するとまたのところがあって、
0:32:27	ここ、断層モデルの評価結果の形状等を踏まえてと言っていて、
0:32:38	ここで、このページで形状等を踏まえての形状等を踏まえて、と言っているものは一つは何かその差異のところに書いてある。
0:32:48	僕短周期ですね。
0:32:51	能登区長の話が反映が 1 点目で、
0:32:55	2 点目が、ちょっとこれもうちょっと後で細かく確認しますがこの各地震動評価結果を S_s-D が概ね包絡する。
0:33:04	地震動レベルかどうかというのが 2 点目で、
0:33:10	何か後まで見ていくと、これ多分し、このページでも下に括弧書きで書いてあるんですけど、一応水平動と鉛直動の比率、
0:33:18	というのも一応この断層モデルを用いた手法による地震動評価結果の件、形状等も踏まえて設定の中で、
0:33:26	入っていて、
0:33:28	いるんですね一応この三つちゅうことでいいですかね。ちょっとそこがねはっきりと。
0:33:33	出したいんですよ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:35	中部電力の岩瀬です。基本的には二つと考えてまして、今言われたうちの 一つ目は形状はこの通りですけど、地震動レベルで断層モデルの
0:33:47	方の地震動レベルも、よく目で見てレベルを決めますよというのが二つ 目で、その結果として水平動上下動が決まっているということなの、考え 方ですので、
0:33:58	この水平動と鉛直動のところは、最終的な地震断層モデルの地震動レ ベルを参照したことの確認行為だと思っ
0:34:07	ているということで、2点目の中の一部だというふうに我々としては考え て、
0:34:13	なるほど。
0:34:15	はいはい。
0:34:16	2点目の、
0:34:18	ゴトウを通りにやっていたら、
0:34:22	はいはいはい。はい。おのずとそうなるだろうということですね。こ こは何かどちらかと積極的に取り入れていくというのが最後の確認とい う意味ですね。
0:34:31	わかりました。俺がね。はいはいはいはい。
0:34:36	何でしたかって、このフローチャートでいくと二つ目の四角ですかね断層 モデルを用いた手法によるって、
0:34:45	形状の特徴、応答スペクトル自身で反映した S_s-D 。
0:34:51	を設定するかの検討と言っていて、
0:34:56	これで、
0:34:59	この右側に…って三つやってこう…って言ってますけど、個別に、
0:35:04	左側の四角の中の一つ目のポツと二つ目のポツにそれぞれ、
0:35:09	対応してるってということでも別にないわけ。
0:35:13	中部電力の要請です一応この辺、少しずれてしまってますけれど入らな くてですけど、あの二つの
0:35:21	形状の観点と、それぞれ地震動レベルの観点ということで、それぞれ一 つずつで、そういうことですか。なるほど。
0:35:32	形状等があって、形状がこのごく短周期の話。
0:35:37	いわゆる形として、どこかを極端に上げる、下げる必要があるかってい う意味で、この形状で、江藤の方がもう少しレベル感という意味ですね。 なるほど。一応これじゃ対応してるわけですか。
0:35:49	わかりました。
0:35:50	最後、 S_s-D を作ったならば、その水平と鉛直の比率が、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:57	整合的かどうかというのを、確認をするとこれ後からのチェックってことですね。
0:36:04	はい。
0:36:05	なんとなく言わんとしていること。
0:36:08	はい。
0:36:09	その上で、ちょっとこの各地震動評価結果を S_s-D が概ね包絡する地震動レベル、括弧 S_s-D を全周期で上回ることがなく、
0:36:20	S_s-D を回る周期が一部となる地震動レベルっていうところが、
0:36:26	これがー
0:36:28	なんていうか、
0:36:30	注意、
0:36:30	実際具体的にどういうことをやってるのが、
0:36:35	教えてもらいたいんですけど、具体的に何が聞きたいかというところ、枕価格地震動評価結果って言ってるのは、
0:36:44	これわあ、何だ例えば S_s1D であれば、
0:36:49	S_sECT を一部超えたのって 62 ケースかな。
0:36:53	その 62 ケースの 62 通り。
0:36:56	何か確認してるっていうことなんですかねこ各地震動評価結果を、
0:37:02	S_s-D が概ね包絡するってこの加来ってっていうのは、これは中部電力の岩瀬です書くと言ってるのはそれぞれ確認しますという意味ではなくてですね、地震動評価結果
0:37:13	今 13 ページの右側の断層モデルの結果をダーツと応答スペクトル重ねてますけど、この角と言ってるのは 1 個 1 個じゃなくて、全部見るよという意味で、
0:37:24	各と書いただけですのでこれら全部をこういう形で重ね、
0:37:28	描いたときに、これらのある種平均的なレベル。
0:37:34	で見たときに、この出っこみ引っ込みを、
0:37:37	考えずに滑らかなものだというふうに見たときに、概ね包絡してるレベル、簡単に言うところここに書いた形で全周期体で上回るようなことがあるとさすがに、
0:37:47	それはいかがなものかとも思いますけれども一部飛び出ているようなものっていうのは断層モデル法の方の特徴になるのでそれは断層モデル法の方で
0:37:58	S_s として面倒見ればいいたろうと。
0:38:01	いう考え方で設定しているというものです。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:07	はい。なるほど。加来土肥っていうのは別に1個1個のケースではなくて全体ですね。
0:38:15	概ね選手、全周期でSs-Dを上回ると、逆に言うとその断層モデルの地震動評価結果の最大をこうトレースしていくと。
0:38:25	Ss1Dが包絡されてしまいましたそんなことにはなりません、
0:38:31	いうところから、ごくごく一部の周期だけ最終的にこれまで結構幅がね。
0:38:36	あるように読めるんですけど、Ss-Dを全周期体で上回ることはなくてかなり極端な例。
0:38:45	もう断層モデルの地震動評価結果のスペクトルの最大をこうとっていくとSs-Dを包絡してしまいました。
0:38:53	ていうのがこのSs-Dの全周期体で上回ること。
0:38:56	それはないですと。
0:38:58	Ss-Dを上回る周期が一部っていうと、この一部もうちょっと、どのぐら いまでのとかによって、いやこれ何で人によって、
0:39:07	このぐら이었다ら1分だよ。いや、これは一部じゃないだろうっていうところが、何か人によってとらえ方が、ばらつくと、なかなか
0:39:20	よく言えばしっかりやっていますしてくださいっていう世界。
0:39:24	悪く言うのですよ。
0:39:25	なってしまうところがあって、何となくやっていることのイメージがつくんですけど、
0:39:32	なかなかそうなってませんねえという判断がちょっと難しいんじゃないかなという。
0:39:39	単にこれ感想ですけど、ちょっとはいアノやってる行為はわかりました。
0:39:47	うん。
0:39:50	概ね、ただね概ね包絡する地震動レベルっていうのもね、多分抽象的で、
0:39:56	なかなかわかりにくい部分があって、
0:40:02	そうそうそう。
0:40:04	米があつてね。
0:40:17	そう。なんか深井滯音なんか探しに行くかね。
0:40:20	いや、実際ねこれどうだったかな再評価結果が全部載っているのは、
0:40:28	他にあつたかな。
0:40:33	あれ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:45	いやちょっとそのあたりは後で、該当ページに行ったときに、もうすぐ来ますけどはい。別にここ前ケース 1 個 1 個見てるっちゃうことではないというのだけはわかり
0:40:57	次が、模擬地震動の作成の地震規模で、
0:41:12	本当に一応、全廃基本の方針としてはちょっと先行の方審査も踏まえてってというのが最初の時には書いてあったんで、
0:41:22	けど、
0:41:26	一応当初申請が一応 311 の観測記録の知見を検討でそれが内閣府のところでも言われてるように嚴重にでも言われてるような話で、
0:41:37	実態の地震規模が 8 に Mw8.2 から 8.3 程度。
0:41:43	で、
0:41:46	先行サイトを踏まえてというと、ちょっとこう先行サイトと言っても、
0:41:52	もともとの応答スペクトル能地震動評価を観測記録包絡で作ってる。
0:41:58	日本海溝沿いのサイトと、
0:42:02	一応同じ、南海トラフを扱ってるサイトとあるんですけど、
0:42:08	結局、
0:42:09	先行サイトの方だと何か内閣府の南海トラフの検討の方だと。
0:42:16	一応、これは二次報告が平成 20 年だから、
0:42:22	内閣府の検討ですけど一応報告と同じく南海トラフの巨大地震の検討に用いる経験的省のパラメーター Mw8.3 として設定しましたと。
0:42:31	一応内閣府も南海トラフの評価の時に使ってますよってという説明をしているサイトもあれば、
0:42:38	業者はここはそうではなくって、一応 311 いつも久野美愛が Mw8.2 から 8.3 ですよっていう。
0:42:47	予測を根拠にされてるっちゃうことでもいいんですかね。
0:42:51	あとですね先行サイト踏まえ等、
0:42:54	メモから伺ったんでちょっとそこら辺も見てみたんですけど、
0:42:58	その内閣府の方で実際に使われてますよというところまでを説明しているところと、乗車はそうではなくて一応当時の地震記録、
0:43:08	実際こうでしたっていうところを根拠にされて、若干ちょっとね、違いがあるのかなと思って、
0:43:14	お聞きしたんですけど、お聞きするんですけど。
0:43:17	この辺りもちょっと
0:43:20	具体的に伺っていいですか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:23	はい。中部電力の岩瀬です。後、ちょっと何ページがぱっと忘れましたが、
0:43:30	実際このMW8.2 から 8.3 程度と書いているものは内閣府 2012 の、今ご指摘のあった、内閣 2012 のものから引用しておりますので内閣 2012 の、
0:43:43	知見に基づいているということは我々としては同じものを参照しているというふうに考えてます。
0:43:50	ちょっとここで
0:43:52	14 ページのところでは内閣府 2012 が少し見えるように、
0:43:58	書いてはないんですけども、
0:44:04	89 ページ。
0:44:06	そうですねなんかはその 88 ページ 89 ページで何か先行サイト踏まえと書いてある。
0:44:12	89 ページかな、これ前回のヒアリングでも図だけ出てきてましたけど
0:44:21	中部電力の岩瀬です 89 ページのところで、内閣 2012 の、
0:44:27	のでこういうふうに分析がされているということを踏まえて、8.5 より小さい値を設定することが、確かに考えられるねと。
0:44:35	いうところで、ここでまず印をしてきた上で、ただ、日本海溝と浜岡の敷地のところの、
0:44:43	違っているのはちゃんと分析しなきゃいけないよと。
0:44:46	ということがありますので、その次の 90 ページのところで、日本海溝のところとプレート境界の近さと、
0:44:54	下を考えると、南海トラフの方が近いことによって、どちらかという継続時間は大きい振幅の常盤ですけども、
0:45:02	大振幅のときは、共振の成績が近い時になりますので、
0:45:06	基本的に継続時間短い傾向になると、こういう形ならば、東北地方太平洋沖地震の知見を参照して設定することができるだろうと。
0:45:15	いうところを記載して
0:45:19	ございます。
0:45:24	もう一つ 89 ページのところに、
0:45:27	ちょっと今説明し忘れましたが、
0:45:29	2011 年のところの矢印の下側、この内閣府のMw8.28. 3 程度って言うていることと、
0:45:40	一つの受けとめ方の分析の一つとして、ノダの方法で、
0:45:45	を用いている。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:50	mJは 8 程度で、
0:45:58	違うな、ここはそのノダの方法で用いている裁断最大振幅という目線で 見るとM8 程度で飽和するという、この話と整合していることが少し補足 として記載をして、
0:46:11	ということでございます。
0:46:17	うーん。
0:46:19	と。
0:46:22	ちょっと待ってね。
0:46:28	具体でいくとだから 88 ページからがこれまでの、
0:46:36	14 ページの再掲が 87 ページですから、
0:46:41	そうすると、
0:46:43	先行サイトのシーン。
0:46:46	あと補助申請の時にはもうこれ前回のヒアリングでも、言っていましたね。 一応なんかMj8.5 を超えるものは参考扱いっていう宙ぶらりんだったので、 それを整理しろということで整理して、
0:46:58	その時に先行サイトでも参照している知見として、
0:47:02	2011 年の、これ太字下線が引いてあるやつですよ。
0:47:08	Mw8. 全体の地震動のMw9.0 クラベて小さい、ここは多分、皆、多分 先行で共通してるんですけど、
0:47:19	本社で、
0:47:21	加えて書かれているのが、89 ページの二つ目の丸なんですか。
0:47:27	ホンダ 2002 の方法で文字、これはあくまで最大振幅ですけど、
0:47:31	最大振幅がMJが、
0:47:34	はM8 程度で、方は、
0:47:37	伊熊最大振幅で飽和してくんで、上、もともと 2011 年の
0:47:43	地震観測記録で言われていることと、ここはアイマスと考えて、
0:47:48	さらに、90 ページそこは多分サイトウ理事になるんですかね。
0:47:53	考えると、
0:47:55	少なくとも震源域に近い、この倍近いので、
0:48:00	一応その共振分の継続時間って意味で見ると、
0:48:06	これ敷地近傍の方が支配的になるんで、
0:48:11	共振分の継続時間としては、本来、短くなる。
0:48:15	数なので、定性的にはですね、
0:48:18	なので逆、非保守的な評価にはならないでしょうと。
0:48:23	いう話ですか。はあ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発音者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:25	うん。なるほど。特にカタカナなんかで言ってるような内閣府の方で一応パラメータ設定としてMw8.3 が設定され、
0:48:35	使われています。実際の何か使われてる実績がありますみたいな話は、
0:48:40	特に話の御社のそのロジックの中では、あんまり使わなくてもいいっちゃう
0:48:44	そういうことなんですかね、先行の事例の中どの辺を持ってきたのかわかっていうところだけの確認なんですけど。
0:48:52	中部電力の岩瀬です。Mw8.3 を設定している。
0:48:58	古藤は内閣が設定していることは当然存じ上げておりますけれども、8.2 から 8.3 の知見と、我々としては基本的に、同等のこと、それを踏まえて設定しているということなので、
0:49:11	いずれにしろ最終的に我々ノダの方法のMj8.5 の最大値のところまでは、保守的に見ましようという
0:49:18	設定をしてることもあるので、基本的には 8.2 から 8.3。
0:49:23	8.5 より小さいことが確認できれば我々としてはいいかなと考えてます。以上です。
0:49:32	若干ね
0:49:35	ちょっと聞いたところの意味合いがあつて、内閣府の 2012 では、ただの事実関係として、共振共振下の地震観測記録で、
0:49:47	本当に距離減衰から求められるようなMw8.2 から 8.3 程度に相当します。以上なのか。
0:49:53	いや実際にそれを踏まえて、南海トラフの地震動を評価するときに、大学で実際にそれを採用して使ってます。
0:50:02	値なのか、そういう事例がありますところまでを取ってくるのかで、
0:50:06	その差なんですけどね、今聞きたかったと。
0:50:10	一応内閣府で実際に使われてますなのか、いやこんな知見があります紹介されているレベルなのかで、
0:50:17	そこら辺の多さだと思ってたんですけど。
0:50:22	中部電力の岩瀬です。コメントの趣旨がよくわかりました。我々はてに 8.3 という知見として取り上げれば、これであとは内閣府の話としては伝わるだろうと思ってたんですが、
0:50:36	どこまでやってるか、MW8.3 でちゃんと設定をしておりますので、そこまで事実関係をきちっとお伝えするように修正したいと思います。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:47	いやそこまで御社が負っていて、そこも斟酌してるのであれば書けばいいし、矢内花粉が使ってるか使ってないかは関係ないですよっていうことであれば書かなくていいし、そこは何で御社も検討してる。
0:50:59	通りの形で書いてくれればいいです。中部電力の岩瀬で承知しました。我々の考え方に基づいて記載を修正したいと思います。
0:51:08	中部電力浜野でございます今、議論のところちょっと、
0:51:13	14 ページ概要で出してるのに、その後で細かくは書いてるんですけど、内閣府 2010 にしっかり確認して今岩瀬が説明したようなことがちょっとこのページだけだと。
0:51:24	読めないの、先出してる割に、
0:51:27	情報不足な感じがしますんで、そこも併せて修正させていただきます。
0:51:38	はい、わかりましたじゃちょっと 14 ページのところもうとにかく 2012 の、
0:51:43	ところの検討把握を何をきちんと知見として採用してるっていうのがわかるような形にすると、わかりました。
0:51:51	はい。
0:51:52	ではですね、次、断層モデル、15 ページですかね。
0:51:59	これもちょっと修正があつて、図の左側、図の 1 は、
0:52:08	これはあれか、S _s 1Dを上回る周期で最大、
0:52:13	-0S _s 21 を 0 にしました右側は、
0:52:19	これは浅井S _s -Dを上回るが、
0:52:29	S _s -Dを上回るが、断層モデルを用いた手法による基準を設定しなかった。
0:52:36	黒線と、
0:52:41	赤線。
0:52:47	これは、
0:52:51	黒線がS _s -Dで、赤線がSS。
0:52:57	1-01 の、
0:53:01	1-1 から 1-23 で、
0:53:05	選ばれたもので、青線が、
0:53:09	S _s -Dを上回るけれども、
0:53:13	S _s に残らなかったもので、青が
0:53:16	黒と赤を上回るようなことはないですという説明に使ってるのかなこれ。
0:53:24	中部電力の岩瀬です。今、ご指摘の通りで、この赤が断層モデル法のうち、S _s で選んだもので、
0:53:33	それをS _s に選ばなかったかつ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:37	それでもDをどこかで上回ってるものっていうのがこの赤、赤線或いは、
0:53:43	Ss-Dの黒線をどこかで飛び出してるものが、
0:53:47	ないということを確認していますよということを記載してございます。
0:53:53	なるほど。
0:53:55	9電力の方がです。赤線も、緑線も一部のところで最大になっているので、これは個別派として、こういうケースは選ばれる。
0:54:05	それに対して、青色のやつは、Ss-Dを一部超えてますけど、赤だったり、緑には包絡されているので、
0:54:13	これは選ばれない。
0:54:15	そういう絵になってます。
0:54:16	はい。
0:54:18	これ、図の1と図の2で、
0:54:22	図の1の方は、赤線がSs21で、図の1の方の青線は最終的にSs1-1から1-20と1-22と23。
0:54:36	かな。
0:54:37	図の1は、
0:54:39	そこはそれぞれ締め青線が意味するものが違うんでそれはいいとして、
0:54:45	このグレーのすべての断層モデルを用いた手法に、このすべてのって言うのはこれSs1Dを、
0:54:53	一部の周期でも上回らなかった残りかすのことを言ってます。それでもこの162ケースとか100225ケースこの全部のことでもないんですねこれ。
0:55:03	ちょっとその値判例が、
0:55:06	ちょっと元凡例とあと、その何と何を比較しているのかはちょっともうちょっと正確にというかわかりやすく書けますか、一応やらんとしてることはわかりました。
0:55:14	中部電力の岩瀬ですこの図を書いている段階ではとかこのずーで表現してるものとしては、このグレー線はこの162ケースと書いてある。
0:55:24	線を全部書いておまして、
0:55:27	ある意味重ねてか重なってるので、ないのと同じ状態になって見えないんですけども、162ケースを書いた上で、62ケースを上を書いて
0:55:39	いました23本は、グレーのところに青とか赤が重なっ
0:55:46	ているわけですね。はい。
0:55:48	いえ、
0:55:50	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:52	名倉です。
0:55:55	ストレートに聞きたいんですけど 17 ページ。
0:55:58	NSEWUDすべて示してるんですけど、すみません私確認したいのは一言で言うと、
0:56:05	EWだけじゃなくてNSEWですべてにおいて外殻線を構成している断層モデルはすべて採用してますか。
0:56:15	中部電力の岩瀬です。それぞれNSEWUDに学線に対応してるものを、それぞれNSEWアップダウンで選んで、
0:56:24	すべてSsにしてございます。
0:56:29	社長の名倉です。
0:56:32	わかりました。そこはじゃあ漏れがないってことですね。
0:56:36	何か
0:56:37	加来脇とか何かいろいろあって、
0:56:40	これって何か裏があるんじゃないかって私たちは思ってしまったんですけど、ちゃんと包絡線を構成しているものは、
0:56:47	すべてSsとして採用しているということで、
0:56:51	理解しました。あと1点だけ。
0:56:54	その時に、内陸地殻内地震とプレート間地震はチャンポンにしています。
0:57:03	中部電力ナゴ説全部重ね描いて、す。その中で学生を引いて選んでいます。
0:57:13	ベッショの名倉です。プレート内地震については、
0:57:16	応答スペクトルに基づくり手法による基準地震動Ss湾のDに包絡されていると。
0:57:23	いうふうに聞いてるんですけど。
0:57:25	実は
0:57:28	海洋プレート内じゃなくて内陸地殻内については3%あるうちの、
0:57:33	2は採用していて、
0:57:36	残り1%は
0:57:39	プレート間地震との比較を、短周期で行っているってということですね。
0:57:46	中部電力の要請です。そういう形になってます。
0:57:54	湯川間野でございますすみません特に意図はなくて今、名倉さんが言っていたいただいた外殻線という言葉が、多分思いついていなかった。
0:58:03	というところが正直なところで、
0:58:07	15 ページ記載してあります通りで図の1、先ほど来鈴木さんからお話あったんすが左側が例示で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:16	今岩瀬がご説明した通り灰色で 162 本全部引いた上で、Dを上回る青線を塗ってですね、その中で、1 個だけここでは、
0:58:28	SS湾の 21 っていうとの位置関係赤で示して、これと同じことを、全部、右側のやつでやると。
0:58:38	右になってますよっていう、なんでちょっと左側例示であるところをもう少しわかりやすくしてこれ、こういうやり方を全部重ねた結果右側になりまして後ろの方に、
0:58:49	選ばれたのはこうですと、当然それはすべて
0:58:54	NSEWUDの外郭性の中で入ったものはすべて選定しているということですのでちょっとその辺りしっかりわかるように記載したいと思います。
0:59:08	はい。
0:59:09	今のね、そこら辺の話って中ん 16 ページに少しイメージ図的に、
0:59:16	書いてあってさらにはそれを 106 ページかな。
0:59:19	これ—Ss1Dを上回るケースのうち、
0:59:24	選ばれてないものは、こちゃん、多分これがこの下で、
0:59:30	最大値に対する比率っていうこの多分最大時って言うてるのが、Ss1DとSs1-1 からSs1-23、なんでこの多分外郭性ですよ。
0:59:41	外郭性を 1.0 として、それとの比率で 1.0 当然上回ってないですよ。
0:59:47	学生を上回るもので選ばれてないものはないですよっていうのは多分この 106 ページの下で、
0:59:53	ちゃんとチェックしてますっていうのを多分言いたいんですかねこれ。はい。中部電力、おっしゃる通りで、それをちょっと 16 ページで、漫画で書いたつもりですけど。
1:00:03	伝わりにくいんで、
1:00:05	今日、
1:00:07	外殻線と非常にわかりやすいお言葉も、
1:00:10	いただきましたんでちょっとその辺りを踏まえてやりたいんですけど、まさにおっしゃる通りで 106 ページっていうのは、外殻線を分母にした結果として、
1:00:20	それぞれの個別はは 1 を超えませんつまりすべて選んでおりますというエビデンスとしてご提示させていただいてると思っております。
1:00:29	はい。そうすると、16 ページのところも、これあくまでイメージですけど、
1:00:35	外殻線って言うてるのは、Tわんから、ちょっと言ったところですが、ここまでは多分Ss-Dが外郭性になって、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:42	D湾の途中からTPⅢに近くなるところまではこれは地震動のどれだ。赤田から①が外殻制になって、
1:00:53	PSD近くなると今度地震動の値が外郭性になって、
1:00:57	てっていうことですよね。そうそこら辺も、後で最ゴコウ 1.0 みたいな比率でチェックしましたっていうのを見るんだとすると、
1:01:07	最後どこが医学生にとってののかっていうところも、そこで説明されるならわかるようにしてくださいと。
1:01:13	はい。
1:01:15	次にですねえ。これ、
1:01:19	Ss1162 円先生に 225 床分母なんですけど、
1:01:24	これわあ、
1:01:26	Ss1 の 162 これ増幅なしだけなんですけど Ss2 の 225 って言ってるのは、
1:01:33	これわーだから Ssにも増幅なしと増幅あり両方見るので、162+4063、63 ケースの増幅ありの評価が、
1:01:46	あって足して 225 っていうことかな、そういうことですよねこれ。
1:01:51	はい。中部電力の石川です。おっしゃる通りで、
1:01:55	Ss-Dについては増幅なしと増幅あり両方を見て設定するという事なのでこの 162 ケースに増幅ありの 63 が出されて、225 となっております。はい。
1:02:06	と、
1:02:07	五つですね、ただここにそうかそれ以上は下記を書くと、このページだと。
1:02:15	枠がないのか。
1:02:17	後に行くともうちょっとあれかな。
1:02:20	アマヤってる声はわかりましたんで、
1:02:23	そうするとここだと、今その中にあるでしょ内陸地殻内 61、これ多分足し引きで、
1:02:30	61-41 で二重の増幅のありのケースがありますと、ここまではわかるわけですね。
1:02:37	次の 62 ケースから 77 ケースになってくると。
1:02:42	例えば 77 ケースのうちプレート間 61、海洋プレート内 16 ってなっていますけど、これうちの高増幅ありが何個残って増幅なしが何個残ってるかは、
1:02:54	ここだけでわからんわけです。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:00	中部電力の岩瀬ですちょっと77ケースと22ケースになってくると、当然、エスワンの方と違うケースが選ばれたりしてますので、
1:03:10	ご指摘の通りわかりませんのでこの22577ケース22ケースについて、それぞれ増幅ありと増幅なしが何%ずつ、
1:03:19	そこに入っているのかっていうのはわかるように、ちょっと※になってしまうかもしれませんが、何らかわかる形で記載させていただきます。
1:03:28	15ページのところ妥当、これ以上細かくしRISのがあって多分具体的なものが101ページからになるんですかね、ここと割とスペースがあるので、
1:03:39	この中に100、
1:03:41	20ゴトウ内訳77の中の内訳22番、内訳っていうのは、
1:03:46	スペース使えばですよ。
1:03:49	この225ってやつもちょっと横に秒長く伸ばして、
1:03:53	増幅。
1:03:54	有賀。
1:03:56	話が41、6358で増幅ありが20。
1:04:01	24
1:04:03	19かな。
1:04:05	で、下まで持っていけば
1:04:09	そこまでわかると。
1:04:13	わかりました。はい。
1:04:16	わかりました。この足し引きの中には増幅ありなしが入ってるんでそこが数字の差分と。
1:04:28	なるほど。はい。断層モデルの結果が17で、
1:04:34	18ページからの免震、
1:04:37	はい基準地震動策定で、
1:04:41	ガイド上のキッツ債を四つ持つ
1:04:46	てきて、
1:04:48	手順の流れはこれ前回から変えてないのかな。はい。
1:05:02	はい。
1:05:04	清町の名倉です。
1:05:06	何かやってること等書いてあることがちぐはぐなんで、ここら辺ちょっとよく考えていただきたいのは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:12	パブコメとかしてるから、もう着目すりゃ長周期って最初から 2 秒から 5 秒とかって、アノ目 5 秒ぐらいまでって限定してるんだけど、そもそもこれ、長周期側の地震動の検討っていうのは、
1:05:26	特に 5 秒までに着目してやってるわけじゃなくて、もっと長い周期のところもちゃんと踏まえた上で、
1:05:32	検討したしているってことなので、そういう意味で何かもったいないような気がして何か命名Cというか、
1:05:40	最初にそんなやや長周期って限定しなくても、ちゃんとやってることはやってるって説明した上で、策定する時に 5 秒まで弱目視で策定すればいいから別途策定する必要がないって、ただそれだけのことが、
1:05:52	のように感じるんだけど、何で最初からやや着目するや長周期を 5 秒に切って、
1:05:58	そういうことをすると逆にじゃあ 5 秒で切って、5 秒弱のところって着目して本当にやってんの。
1:06:06	ていう話になるので、
1:06:08	そういう意味で、何かやってることをちょっとちぐはぐしてもったいないなという気がちょ
1:06:12	としました。
1:06:15	なのでちょっと論理は少しよく考えていただかないと、何かすごく迷いが出ていて、議論も混迷するような感じがします
1:06:29	こちら辺はちょっとよく考えていただければと思います
1:06:34	はい。中部電力の岩佐です。趣旨は承知しました。ちょっと①として、大事な検討だと思って先頭に変えただけで、②のこのやや長周期の、
1:06:45	時語尾を踏まえて、別に無理検討してるわけでは当然ありませんので、
1:06:50	確かに③の必要に応じて基準地震動策定というところの中の一番最初の 1 項目として、これを検討すれば事足りる話ではありますのでちょっと順番も含めて、
1:07:01	あの中に入れるかどうかこの辺は、よりの確な説明になるように整理をさせていただきたいと思います。
1:07:09	社長の名倉です。1 点だけちょっと質問ですけど、
1:07:13	これじゃあ、
1:07:15	地震動としては、やや長周期で、10 秒を超えるところも念頭に比較をしたりして、
1:07:23	最終的に、
1:07:24	5 秒のところ、耐震型の基準地震動としてカットしてるんですけど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:30	そのときの処理ってちゃんとしてます。5秒から10秒のところって、いきなりこれかかっとして無視しちゃうと、波としておかしくなっちゃうので、こ こら辺の処理はどういうふうにしてる。
1:07:44	中部電力の岩瀬です。今波の選定をする上Ssで着目する段階は5秒 という目線で見えますので5秒まで描画をしておりますが、
1:07:57	もちろん下手にカットとかはしておりませんで、ちゃんと
1:08:03	等、
1:08:05	理論的手法で評価した長周期が、要は10秒を超えるようなところまで 含めて評価したものはそのまま基準地震動として耐震評価に用いるつ もりですので、特に
1:08:15	成分をカットして評価するというところをやるつもりはございません。
1:08:25	規制庁の名倉です。そこら辺、波は正直で、時刻歴を見ると、
1:08:31	ちゃんとそこは考慮されてるって、見ればわかるんだけど何も書いて ないので一体どう処理してるんだろうって。
1:08:39	思ってしまうところはちょっとあります。
1:08:43	中部電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございますちょっと説明不足の点 については改善して、わかるように記載をしたいと思います。
1:08:58	はい。よろしいですかね。はい。
1:09:00	いや、うん。
1:09:02	なんかその①のところでは物がすべて試験されてしまうような、何か論理 なのか。丸さんのところに行ってから、得よう比喩がこれ入れませんね って説明してるのか。
1:09:12	ちょっとねそこら辺がよく、
1:09:14	ただし、とはいえですよ。ここで要否でいいなとなろうがなく別途作成す る必要があるとなろうが、一応この④⑤というのは、
1:09:25	ガイドに書いてあるものを仮にいいなど。
1:09:28	ベッドがいらないとなったとしても、一応ここは、検討としては、比較検討 はしますと。
1:09:36	というのが一応流れですかね。
1:09:38	ですね。そうする等、ちょっと置き場とか論理どうするかは別として、一 応丸さんここで必要に応じて、
1:09:48	他の施設は別に基準地震動策定が参りませんというところが結論で、
1:09:57	④は、これは国交省は関係なくて断層モデルはとの比較で、
1:10:05	継続時間、青スペクトルと継続時間か。
1:10:09	の確認をしますということですね。⑤が基整促波との確認。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:15	はい。
1:10:16	いうことで、
1:10:17	一応フローチャートの話はわかりましたと。
1:10:23	はい。
1:10:26	で、当初申請からの変更は、これはいいか。
1:10:32	共通する。
1:10:36	ページの図 1、
1:10:39	で、
1:10:40	顕著な増幅参事シマこれも一応、これまでの説明の、
1:10:47	再掲ではある。
1:10:50	はい。
1:10:56	でね、Ss2 の策定方針が 34、これもこれまでの説明では、
1:11:02	あるんだかー。
1:11:05	ええ。
1:11:06	と。
1:11:07	35 が断層モデルで 36 も断層モデルで、
1:11:17	37 も、
1:11:20	これはそのときに使ったフーリエスペクトル比ですと、
1:11:26	で、
1:11:28	38 が特定せずへのは下で、
1:11:35	どうあれ、応答スペクトルの方への反映っていうのは、
1:11:43	これ今田戸高断層モデル断層モデルで説明した標準応答スペクトルに行っていて、
1:11:49	応答スペクトルのほうへの反映っていうのこれ何かどっか出てくるんでしたっけ。
1:12:02	中部電力の湯浅です今応答スペクトルのほうは割愛してしまいましたので、ちょっと追記するようにします。
1:12:14	複雑な手順とかさしておきですね、ちょっとその 3 者に対してどういう反映の仕方をしてあるかっていうところだけは、
1:12:22	何かわかりやすく言った上で何か実態、より細かく言うと、
1:12:27	この 3536 とか多分こういうことなんだと思うので、
1:12:31	この辺はやっぱ、
1:12:32	アカシついただくとともにですねえ。
1:12:36	39 からは、これは何だ。
1:12:44	あれだな、あんまり細かくこの多分説明はさらっと流すんでしょけど、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:49	検討用地震と、増幅しないの概要。
1:13:00	でも 1、
1:13:05	なんか 40 ページ、
1:13:07	の内陸地殻内プレート間とか海洋プレート内とか、これはもともとの説明のところに、この黄色く枠書きをし、
1:13:17	であるのが一部修正なのかな。
1:13:20	多分もともと説明したようなところ 2 ナカフローとかこういう全体像のところに、
1:13:26	注意書きのように赤く黄色くか黄色くハッチングを足してあるんですかねえ。
1:13:35	もしあれなんだとすると先ほどもなんか何ケースみたいな数が結構多いので、
1:13:40	ここだから、40 ページでいくと、
1:13:44	基本モデルと不確かさの考慮だとこれだからなんだ何 10 ケースでプレート間も何十ケースでかいオペレーターも多分何十ケースって、
1:13:52	いうのがあるのかな。
1:13:55	41 ページのケース。
1:13:57	ちょっと今回あんまり細かい 1 個 1 個の評価というよりも何かを選んで潰してっていう。
1:14:03	何を選んで何を選ばないかっていう世界になるので、ちょっとここも何ケースみたいなものは、一部人捨ててなんであれば、
1:14:13	どこか
1:14:14	例えばどこですかね
1:14:17	どこに書いた方がいいのかな。
1:14:20	まあ、おっしゃるなら 40 ページのこの内陸地殻内っていうところの、
1:14:23	右側にでもいいですけど、何かなんていう何ケース、プレート間何ケースかプレート内なケースって、
1:14:29	ただこれは象ん増幅を踏まえたところの説明だから、あんまりここで、
1:14:35	使いたくなければ別の場所でも結構なんですけど、
1:14:41	中部電力になりますので、今
1:14:44	結局、増幅ありとなしをやりますと言った後に、こういう形でどんだけの検討地震とケースがありましたっけという形が少し思い起こせるように、
1:14:55	これをつけておりますので、それが先ほどの Ss の選定のところとの関係もあって、何ケースということが確かに書くとわかりやすいと思いますので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:05	一番簡単なのはこの一番上の内陸地殻内プレート間地震海洋プレート内って、青で書いてるところに、
1:15:12	何ケースと横に書けば、
1:15:15	全体として増幅ありとなし両方とも何ケースぐらいかっていうのはそれで、
1:15:19	わかると思いますので、そうすると先ほどの足した 220 何ケースって言うてるやつがこの数字と合わなくなってくるので、そこら辺も含めて、わかるように少し整理をして記載をさせていただきます。
1:15:33	はい。お願いします。
1:15:36	で出た。
1:15:38	基本的な方針があって、まずはSsの実際策定をするかどうかの免震です。
1:15:46	ものが二次で 2 ポツ 3 で 44 ページからと、ここはさっきのところと同じで、
1:15:54	はい。
1:15:55	46 ページ見ると何かここで、
1:15:58	何かご用までですっていう何か宣言にはなって、ちょっとここはオンリーの方はまた直していただくとし直すという話だとして、
1:16:07	47 ページが、からがですね。
1:16:11	いわゆるある程度、やや長周期に着目した。
1:16:17	検討ができていますかイマセンかの確認で、
1:16:22	ここがねえ、ちょっと変えはったんですけど。
1:16:27	これあれですかね内閣。
1:16:29	府の方では、これあれかな最大クラスと。
1:16:34	内閣府 2012 だと最大クラス。
1:16:38	あと内閣府 2015 で最大クラスの長周期地震と言われる二つのものがあって、
1:16:46	中部電力としては前者の、
1:16:50	評価のみをやっているんだけど、それは後者の、
1:16:54	内閣府 2015 の最大クラスの長周期地震。
1:16:58	とも比較をした上で、前者の方で評価しておけば、長周期も含めて評価できてますと、代表できますと。
1:17:07	いうのを、これは、
1:17:09	すでに地震動評価のところでそういう考慮ができています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:16	そういうのやってみましたっていうここは過去形なんですよね今回改めて検討して確認しますではなくて、
1:17:24	中部電力の岩瀬です。鈴木さんのご指摘の通りすでに検討してある、ありますということをここで説明する形になります。
1:17:33	はい。それがだから 1 点目ですよ。
1:17:36	もう 1 点目が、その南海トラフの中での聴衆最大クラスの長周期地震というのはこれはもうすでに、
1:17:46	これも地震動評価の中では加味されていますと。
1:17:50	その上で、これが 57 ページになるんですかね。
1:17:55	それ以外に、敷地から距離を離れているが地震規模の大きな地震っていう。
1:18:01	話があってどっちを先にね持ってくるかにもよりますけど、やさきにいや南海トラフがこんなに近いところにあるので、これだけやっつけばいいんです。それは、内閣府の方で行ってる最大クラスの長周期のものも、
1:18:13	これは含まれてますっていうロジックなのか、ちょっと 57 ページにここだけ急に出てきて、
1:18:19	またその次に、またここは、南海トラフの中の話ですよ、これは。
1:18:26	この 58 ページからの説明っていうのは、これも何か本邦初この段階で、
1:18:33	何か確認して議論をしてっていう、
1:18:36	話なんですかねこの 58 ページとかも、何かこれも、
1:18:40	これまでやりましたの話なんですかね。
1:18:46	中部電力の岩瀬ですが、58 ページもこれまでやっていたというお話ですしこの江藤内閣 2012 の直下ケースの説明に、
1:18:57	ある意味になりますので、それはもうすでに、
1:19:00	55 ページ 56 ページで、確認してるケースの一つ。
1:19:06	でも、
1:19:07	あります。
1:19:08	検討地震の件、確認の問題と、地震動評価の実際にやってるところの確認という形で、今、提示を分けた関係で、
1:19:19	こういう構成にしております、
1:19:23	敷地から距離を離れているが規模が大きい地震っていうのは検討地震の問題だと。
1:19:28	いうふうにとらえておりますので 57 ページの間に入れたという、
1:19:33	整理を我々としてはさせていただきます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:39	はい。
1:19:41	ですね、ちょっとどうしようかな。阿藤。
1:19:46	これも実際に今やられてるのかももう南海トラフがねこれだけ近くてM9 クラスなんであれなんですけど、
1:19:54	割とプレート間が近くないところだと、何か長大活断層みたいなやつも、
1:20:00	なんか見ているじゃないですか。
1:20:02	いわゆる
1:20:05	ITに言ってしまうと九州とかね辺りなんですけど、割と活断層として相当長いようなもの。
1:20:14	それはあんまりサイトの近くにはない。近くというかちょっと離れたところですかねいわゆる半径 100 数十キロの円から外れるんだけど、
1:20:25	割とかなり長い断層っていうのはこれあんまりないのかな。
1:20:28	岐阜とかに行くと
1:20:36	4、49 ページのところ少し出てきますが、
1:20:44	15 番の、
1:20:46	遠州断層系っていうのが 8.2 ということで、これが 100 キロを超えるような、
1:20:51	断層になりますがこれ一応敷地のある程度の一定のナカナカですよ。ありますね。ありますね。これ以上ないか。
1:21:00	もうとうすぎるのかなもっと、大体、うん。
1:21:04	演習も結構遠いんですけどね、20 年フタミでは頑張りましたけど、
1:21:10	プレート業界自身が我々最短距離で 13 キロと、かなり近いもんですから、
1:21:19	さすがにそれより近いところとなると今検討用地震に選んでる、17 断層と、御前崎海脚西部の断層と、あと分岐断層として選んでる東部の断層、
1:21:29	とか、その本当に敷地に近いところ、断層になります。はい。
1:21:35	それでちょっとこの 57 ページなんですけどね。一つ目のポツこれは実際やってみました。
1:21:45	敷地からもうちょっと距離離れてるけど地震規模の大きな地震、これの
1:21:51	線、こういうものを考慮しておかなければいけないのかというところの確認をしますと、矢印にいて、
1:21:58	かなり規模大きいものと日本海後ちょっと千島海溝、日本海溝がM9 程度でプレート間、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:07	地震や千島海溝にM8.8 程度以上のプレート間地震、1000 想定されているが、
1:22:14	確かにそうですねと。
1:22:16	この検討用地震としては南海トラフの最大クラスのプレート間地震、
1:22:22	Mw9.0、まあ、そうですね、の方が、
1:22:27	最大クラスのプレート間地震でありという、ここの、
1:22:32	かつ敷地に近い。
1:22:36	いうW9.0 の方が最大クラスのプレート間地震。
1:22:41	これは何ですかね日本海溝とか千島海溝よりも、何かでかいですって言うてるんですかね。
1:22:49	衛藤。
1:22:53	これは何か最大クラスのプレート間地震という意味ではもう結局同じ部類で、
1:22:59	一番近いんです近いところを選んでるんですっていう。
1:23:02	ちょっとこちよつと日本語として、中部電力の松原スズキさんに言っていた後者の考え方で書いていましてちょっとわかりにくかったところすみません、もう少しわかるように書きます。
1:23:14	要は敷地より離れたところに同じような最大クラス、
1:23:17	地震の想定はされてるところあるけれども、うちの敷地の前には、南海トラフという最大クラスの地震が近いところにあるので、これで代表できるでしょうということがもう少し、
1:23:29	わかりやすくなるように記載を修正させていただきます。
1:23:34	はい。
1:23:36	ですねちょっと後は、この話を検討地震の最後に持ってくるか、ちょっとどういう流れでやってるかに漏れますけど、いや先にいや南海トラフを見ておけばいいんです。南海トラフの方の、
1:23:49	何か最大クラスの長周期でしたっけ。あれは南海トラフの最大クラスのをやっとならば、我がサイトの場合は、
1:23:57	代表できるんですっていう、ちょっと順番なのか、それを説明した後これなのかつちゅうのは、
1:24:03	御社の検討の中身次第ではあるんですけどちょっと今の部分を
1:24:07	今後わかるようにしていただくとして、
1:24:10	検討地震の後に一応手順としては実際の地震動評価があるんでそれが 58 ページで、これも別に本郷初公開ってわけでもないんで、
1:24:20	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:21	なんでちょっとすでにこういう検討がされてるっていうものと、今回この説明の中で、これは新しくか、このために確認をしているんですっていうものは、
1:24:34	ちょっとねわかるように、さっき言った冒頭の、
1:24:38	どこだ。
1:24:40	どこ行ったかな。
1:24:43	そうなんだ。
1:24:45	ところっちゅアノ 010203 じゃないんで 02 に入ったところか。
1:24:50	この②で何をやらなきゃいけないって何を確認して何を説明するのかっていうところで、
1:24:56	ちょっとねそこがね、あの本なかったんですよ。
1:25:01	もうすでにできてる、やれていることの説明をしているのか。
1:25:06	今回改めて、今回新たにですね、新たにやってることと、すでにやってますっていう。
1:25:12	ことがあんまりわからなかったの、
1:25:15	そうしないと後者の目で見えちゃうと、何か 1 から
1:25:21	再掲ってなってるの。
1:25:23	含めて 1 から何か確認して議論してっていうことなのか、いやそこはね、もうすでにそういうことで確認ガス、
1:25:29	済んでいる話なのかっていうところは、わかるようにしないと、何か論点ばかり発散してしまうかなと。
1:25:35	ということです。
1:25:37	なので一応何だ日本海溝だ後シマ会合等というところの比較以外は、言ってみれば地震動評価の際にそういうものはきちんと配慮されているんですというのが多分説明だと思うので、
1:25:50	そうすると、②はね、ちょっと大半がそういう意味で、改めて、
1:25:56	こういうことをやっていたわけですよという説明になり、
1:26:01	③がちょっと必要性の検討でちょっとここは先ほどの、
1:26:08	最終的には 1 御社としては、実際、実態のその免震構造物がこうなんで、一応 5 分まで
1:26:16	ベッド。
1:26:18	の作る必要はありませんというのがさ丸さんの結論で、
1:26:23	とはいえ④⑤をやります。
1:26:26	一応これ免震ガイドで書いてあるようなところがあるので、
1:26:30	そういう配慮ができていないかを、④⑤確認SIMMERすと、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:35	ということで、
1:26:38	継続時間は言ってみると、明らか。
1:26:45	なあとこもあつ。
1:26:47	あとは、
1:26:50	レベル。
1:26:52	ここわあ、応答スペクトルの地震動評価断層モデルのところで一応プレート間地震のものも配慮して、多分概ね包絡できるものを作りますと言ってたんで、
1:27:04	そう。それと、それと同じレベルでは見れてますってことですね。
1:27:10	うん。
1:27:16	で、実際今超えてるようなものはこれは個々の断層モデルは特徴なんでこれはSsとして採用してこれもだから設計に使えますというのが多分、
1:27:25	市なんで、断層モデルを用いた手法による基準地震動の策定において考慮してるっちゃうのがそういう趣旨で、
1:27:32	はい。
1:27:36	ここです、62 ページ。
1:27:40	これも後でもSs-Dの継続時間とかも出てくるんですがここが、
1:27:44	62 ページが、大振幅部の継続時間、
1:27:49	な 110 秒。
1:27:51	かな。これが、
1:27:55	110 秒が水平で鉛直が 102 秒でこれが耐震振幅分の継続時間とあっていて、
1:28:04	これ、最速度は形ですかね。
1:28:07	次に、基整促波との比較があつて、64 ページから
1:28:13	ここも何か今度静岡の主要度主要度は 100 から括弧 200 程度。
1:28:20	に行くと、165 ページにいくと、継続時間が今度 155.8 秒とかつてなっていて、
1:28:28	何か大振幅の繰り返しが 100 秒って、何かこの大振幅とか継続時間とか、大振幅の継続時間とか、
1:28:36	多分、後ろに行くと今度、これは加速度の方ですけど、何か共振。
1:28:41	の継続時間が今度多分 70 何秒とか出てくるんで、
1:28:44	ちょっと少なくともこの辺が定義がよくわからなくなってくるんですけど。
1:28:52	大振幅の継続時間って、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:00	うん、これなんかどのぐらいのものを大振幅部と言っていて継続時間が、
1:29:04	だから 110 秒っていうのはちょっとどうやって見ればいいんですかね、これ。
1:29:10	中部電力の伊庭です。岩瀬ですここ特定せずの時に何ガル以上の
1:29:17	出現する場所の長さという形で取っていたものを、少し応用できないかということで検討させていただきまして、右下のところに書いてございますが、
1:29:28	水平動で 50 回、
1:29:30	以上のところが出現するところを大振幅部という形で整理させていただいて、
1:29:37	同じように、50 回以上のところが、延長がその半分の 25 回という形で実施しておりますけれども、そういったところの長さを測っていると。
1:29:47	50 カインというと大体一般の建物、
1:29:51	建物とか土木構造物建築構造物でよく
1:29:54	当センター協定とかそういったところで 50 回に基準化した地震の設計で使うことが、
1:30:00	多いですので、それぐらいを目安にすると、一つ指標になるだろうという形でこういう分析をさせていただいております。
1:30:11	なるほど。
1:30:14	で、ここは最速度として 50 回で、
1:30:18	確かにそうかSS。
1:30:21	1Dは装荷水平鉛直比が二倍だから、そうかいのか。50-25 っていうのは、はい。
1:30:31	断層モデルとの比較は結果としては明らかなんだけど、
1:30:36	はい。
1:30:37	主要動の方はどうかというと、
1:30:42	これは、
1:30:44	継続時間主要動の継続時間といって、或いは基整促波の方と、一応Ss 1D
1:30:51	とで一応比較はされてるわけですね 65 ページで、
1:30:54	これは、
1:30:58	中部電力の岩瀬です。
1:31:00	これ久田先生の資料が必要度というふうに書かれていましたので、使用度という言葉を使っておりますけれども、ここでおそらく使用度と言

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	われたのはこのすごく小さい振幅で、ノイズなのか本当並みなのかわからないのは置いて、
1:31:16	とすると、
1:31:17	青い図の時刻歴破壊で書いてあるところの、これ久田先生の白戸先生のというよりはこれ国交省が出してるもののコピーだと思いますけれども、
1:31:29	それの中の大体 100 から 200 秒の間がメインで、もうちょっと長いところもあるかなという意味合いで、100 から括弧で 200 秒というふうに書かれています。
1:31:41	我々としては認識してます。その上で、どこと比べるかはなかなか難しかったんですけども、我々が作ってるSs-Dの模擬地震動っていうのはもともとそんなにそもそも小さいところ、
1:31:54	は作っておりませんので、大きな振幅、
1:31:58	もうもっと言うと、
1:32:00	10 会員とか 20 館以上ぐらいのものがほとんどになりますので、そういったものの全部を見たときに、100 秒以上になっているということで、比較としてはがわかりやすいかとは思いますが、
1:32:14	こういった比較で、継続時間の比較としてはできるんじゃないかという形で、
1:32:18	させていただきます。
1:32:24	はいはい。
1:32:26	何で基整促波自体にあんまりその、何か委員からっていう、具体的な
1:32:30	ものもないある程度目方として、
1:32:34	何だろう、例えば 500 秒とか 600 秒とか、最初の 0 秒から 100 秒ぐらいまでの間の、ほとんど弱い。
1:32:42	波ですよこれ。65 ページの方でもいいですけど、
1:32:46	あそこはとりあえず無視して大体まあ 100 秒前後ぐらいで少し、
1:32:50	大きいのが来て、
1:32:51	200 秒がもうちょっとスギタ辺りでほとんど、
1:32:55	600 秒 500 秒と同じようなぐらいまで、振幅がちっちゃくなってるので、
1:32:59	多分この辺りをとって、100 秒から 200 秒ぐらいと言われてるんであれば、
1:33:07	それとすると同じようなレベル感で見あげると、100 数十秒ぐらいはあるでしょう。
1:33:15	これはそうか、SSやカラーが 100、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:19	五、六十秒ぐらい以降になると思うはいあとは
1:33:23	新年度としては死にましたというか、あんまりそう言っちゃいけない。
1:33:26	もうPというふうにもう直線になっちゃうんですねこれ。
1:33:29	はい。ただここら辺はもうMDとして 100 数十秒ぐらい、50、60 秒ぐらいはあるでしょうと。
1:33:36	みなしでしょうということでこれは十分だということで、
1:33:39	はい。あと、これは、
1:33:42	あと言わずもがなのかもしれないんですけど、これ国交省の技術的助言を見ると、基整促波とともに、
1:33:49	まずそのなんか検討対象だったかな、なんか多分検討対象地震だったかなアンカー確かあって、
1:33:55	それが確かに内閣府の検討、確か引っ張っていて、
1:34:02	国交省の助言自体を見るとですね。
1:34:06	もともとの技術的助言の方ですよ。ここには県、対象地震か、
1:34:12	対象人員というのが、
1:34:14	本対策で対象とする地震はモデル検討会において南海トラフ沿いで、
1:34:20	100 から 150 年程度の間隔で発生しているとされるM値からM9 クラスの巨大地震。
1:34:28	おまけ対象地震としますでそれを対象に成層化を作りましたで、
1:34:33	一応前段の内閣府のモデル検討会で言われているM8 からM9 クラスの巨大地震南海トラフのですね。
1:34:41	これはもうこれまでのその説明というか検討の中で、当然それは内閣府のそのモデル検討会で言われてるようなものは前提として考慮してますと。
1:34:51	その上で残るのは、継続時間かな、継続時間の比較を確認しますと。
1:34:59	いうイシイですかねその前段部分の対象地震として基整促波の元ですよ。国交省の技術的助言で対象地震と言われているものは、
1:35:10	それは考慮してますっていうのは何か言わずもがな。
1:35:13	で、
1:35:14	継続時間の方、実際のその規制増加を見ながら規制継続時間だとスペクトルレベルですね。
1:35:23	を確認しましたという、そういう流れですかねこれ。
1:35:30	中部電力の岩瀬です。
1:35:32	もちろん鈴木さんが今、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:36	指摘いただいた点はもちろん考えておまして、当然南海トラフの地震は我々、
1:35:42	考慮してし、地震等を作ってるに決まっていますのでそれはやっているんですけれども、その点についてちょっと今、記載はしておりませんで、 基整促波
1:35:52	の比較だけの記載になってしまっておりますのでその辺我々がちゃんと
1:35:58	考えていることがわかるように、少し野瀬かというと 64 ページの
1:36:03	どういう位置付けで検討しているのかというところに説明が足りないというところだと思いますのでこの辺追記をさせていただきたいと思います。
1:36:14	御社の検討のファクトとしてはだからあれですかね一つ目の国交省の技術的助言はのところに、
1:36:21	小玉内閣で言われてるこういう、
1:36:25	地震を対象に、この対象区域で定めていくっていう、ここに、
1:36:31	少し書き出した上で、
1:36:33	ということですかね。
1:36:36	中部電力の岩瀬岩瀬です。
1:36:38	64 ページの上の四角の国交省の助言の説明がまず対象地震も含めた説明が少し足りないというところだと思いますんでまずそこを追記した上で、
1:36:48	そういった対象地震をSsの策定に浜岡としてちゃんと考慮した上で、
1:36:53	それ以外にも国交省の技術的助言という基整促波というものを公開しているんで、その比較も行いますという形で、説明、我々が考えていることを、
1:37:03	説明として記載を適正化したいと思います。
1:37:29	うん。なんでそうそう正しくですねその技術的助言があって、まず対象地震としてそういうのがあります。
1:37:36	あくまでもこれ超高層建築物の対策っていうところで、
1:37:41	対象地震によって建設地で発生すると想定される長周期
1:37:47	地震動 1 杯以上に検討を加えて行うこと。
1:37:52	それはこれは認定の審査において求めますとか新設の場合ですけどね。
1:37:59	ここでとかって対象地震によって建設で発生すると想定される長周期地震動は基整促波または基整促波の策定法同等以上に行って、
1:38:09	段階であって、御社だからこの基整促波の範疇内なんで、
1:38:14	場所がだからこっちを見ますってことですかね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:38:17	もう1個はその基整促波の策定方法と同等以上に適切に検知切土で発生すると想定されるとか、長々書いてあってですね。
1:38:26	こっちの后者のやり方をとる場合は、
1:38:30	一次固有高層建築物等の一次固有周期付近の疑似速度応答スペクトルエネルギースペクトルが生息派と同等以上であって、
1:38:41	0.1 から 10 秒の周期成分を含む継続時間が 500 秒以上のって、
1:38:46	こっちを取るとだからものすごい長くなるんですよ。
1:38:49	これ多分基整促波を使わない場合ってということだと思んですけど。
1:38:58	ただここもう御社の方は、いやいや、うちはだからこの基整促波の範疇になって、基整促波の方を使える。
1:39:06	です、正則アノ法との比較がいいんですけど。
1:39:09	いう論理なんですかね、これ。
1:39:12	当然同等以上のっていうやつをとってもいいんですけど、ただそうすると、
1:39:17	そもそもどういう地盤かっていう前提がまだ違うかもしれませんが、継続時間とか 500 秒以上って、割とファン、かなり
1:39:26	極端な継続時間のようなものも出てくる。
1:39:31	ここもうなんか違う、ちょっと違うか。
1:39:49	ちょっとこう、技術的助言との比較のときに、何か技術的助言のうちから自分たちがその比較で持ってきた部分だけを、
1:39:58	できてしまうと。
1:39:59	あれここどうなってたかっていうふうになるので、もうちょっとここは、いや最終的な結論として、別に何か継続時間が及び必要かっちゃうのはさしておいてですね。
1:40:09	ちょっとまず、技術的助言はこうなっていてこれのこの部分と比較するのが適当でっていう。
1:40:16	ちょっとそこはね、あんまりこう、
1:40:20	最後、都合のいいところ持ってきましたというふうには取られないようにはした方がいいと思いますけどね。
1:40:25	ただあんまり新設する場合と既設のものっていうのはあまりそこは関係ないと思うので、
1:40:31	とりあえず一応これ多分新設する場合のところに書いてあるところを今読み上げましたけど、
1:40:41	一応この基整促波と法の比較で足りるといって、
1:40:46	その基整促波の防災をして基整促波と比較をして、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:50	その加速度を遊ぶとか、
1:40:54	もう速度時刻歴は系と、
1:40:56	一応これも荒木製造課の方って多分加速度までは出てなかったけど、 そもそも、
1:41:03	速度速度スペクトルをどうやっ。
1:41:06	で算出したから逆算すれば一応 65 ページの、
1:41:11	速度加速度加速度のスペクトルも多分出す、これ逆算して、御社で出した んですよね多分。
1:41:18	中部電力の岩瀬です。この辺検討チームのこのガイドを作るときに確か 議論があったというふうに記憶しております、
1:41:30	国交省の方法はどちらかという、簡易的な方法でこの地震動を作って ることもあって、基本的にはやっぱりサイトの特性に合わせて断層モデ ル法でしっかり要は、
1:41:41	我々が原子力発電所でSsを作る時にやることで、
1:41:45	そういうことで基本的にやるべきだということも言われておりますので基 本それをやっているという前提で、
1:41:52	それで基本的に考慮できてるというふうには考えているものの、この基 整促波っていうものがこの区域の中で公表されている上それとの相対 関係については、
1:42:02	説明すべきだということで、今この 64、65 を説明していると、そういう位 置付けで考えてございます。
1:42:10	もう一つ継続時間の 500 秒とか 600 秒と言ってるところについては、当 然南海トラフが、
1:42:19	長さ 700 キロありますので、
1:42:22	それぐらいの形、継続時間というよりは破壊時間考えたらそれぐらいの 量計算領域、
1:42:28	としては、時間を考慮しなきゃいけないんですけども、当然長く計算を しても、効いてくるところが敷地の近くだけなので、
1:42:38	62 ページの断層モデル法でお見せしてるように、計算時間としてもっと 長くやってるんですけども、地震動として、施設への影響に意味があ る、ありそうなところについてはそんな長い時間がないと。
1:42:52	そういうふうに我々としては認識して評価をしてございます。
1:43:11	はい。なのでですね、その検討チームのときに、すでに県、検討されて るんで、
1:43:18	っていうのはまた、ガイドを作る前の前提ではあるんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:43:22	社として国交省の技術的助言の中から、何を比較対象にして、やってるかってのは御社の考えをですね、書いてもらいたいっていただけなので、
1:43:33	何か検討チームではだからこうだからって、
1:43:36	いう。
1:43:37	あと、そこは何か必要説明の必要がないと思いましたというだけではなくてですね。
1:43:43	ただですねえ、一応当時の考え方も当然あって、
1:43:49	菅巻頭部屋の比較的やわらかく厚い堆積層が存在しないものと考えられることからとか、いろいろもちろん当時の検討はあるんですけどね。
1:43:58	ちょっと御社として、技術的助言の中から何をその参考として拾って、
1:44:03	来るのか。
1:44:05	というところは、もうちょっと
1:44:08	これは持ってきましたこれ持ってきませんとかです。
1:44:10	それはちょっと御社としてなぜ持ってきていない。なぜこれとの比較をするのかってのは御社としての考えを切り換えて、
1:44:17	はいなくて、
1:44:18	塩山先生が言ってましたとかそういう、
1:44:21	もしかしたら同じようなことを御社も考えているかもしれない、そうじゃないのかもしれない。
1:44:26	御社の考えをはっきり書いてくださいと。
1:44:30	その上で一応基整促波との比較という意味だと前回は加速度で、
1:44:36	やってたんだけれども一応これは速度かな。
1:44:40	速度で比較しましたということですね。はい。
1:44:45	67 が結論で 68 がガイドかな。
1:44:55	ここは、
1:44:58	一応上の二つがなんで別途のものを作るかどうかという話でしたの二つが別途ものは作らないんだけど、
1:45:09	このガイドの肥田左側の下二つの枠ですね、これがきちんと耐震用の
1:45:16	Ss-Dなり、断層モデルの地震等で考慮されているかの確認。
1:45:21	いう流れなのはわかりました。
1:45:23	はい。
1:45:26	ですね。そうすると、
1:45:28	あとは、方針さえはっきりと書いてくれば、
1:45:32	割と機械的になるので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:36	74 からは、今まで方針の話が書いてあるうちの、
1:45:41	具体的な
1:45:43	策定結果なり流れの話なんで、
1:45:50	うーん。あそこでちょっとさっき言った 76 ページですかね、これがだから、
1:45:59	計上後の各地震動評価結果を概ね包絡する。
1:46:05	と言っていて一応先ほどの説明だと、
1:46:09	ここ 1 個ではないんですと一応この
1:46:12	小断層モデルの地震動評価結果、
1:46:17	それなりに 1 個 1 個対応のものありますけど一応これを
1:46:21	概ね包絡する。
1:46:24	と言っていて、
1:46:27	その際、
1:46:29	全周期体で大きい、
1:46:32	一応だからこの例えばEW方向みたいなものも含めてですね 76 ページの
1:46:37	ところだから概ね包絡している。
1:46:41	ということ御社は、確認、
1:46:44	しましたっていうそういうことですかね。逆に言うと概ね包絡できないって言ってるのは、もったこう、全周期体にわたってこれ多分今だと 0.1 秒よりも、EW方向は 0.1 分よりも、
1:46:56	短周期が多分、飛び出ではないのかなと。
1:47:01	と思うので、
1:47:02	ここまでも含めて飛び出てしまったらさすがに、
1:47:05	レベルを調整したかもしれないけどっていう、
1:47:09	そういう意味でも概ねですかねこれ。
1:47:11	なのか、飛び出た程度感なのか、跳びれてる領域なのか。ですけど、ある周期体なんですけど、今だと、EW方向、0.1 秒から、
1:47:20	大体 5 秒ぐらいまでのところは、所々で飛び入ってるけどそれより短周期側はほぼSs
1:47:27	1Dで包絡。
1:47:30	できているので、
1:47:32	これはだから、
1:47:33	概ね包絡する地震動レベルでSsEDが設定されてますと。
1:47:38	そういう確認の仕方なんですかねこれ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:43	中部電力の岩瀬です。正直概ね包絡という表現はなかなか迷いながら書いてるんですけども、いや、考えている実態としては、
1:47:53	鈴木さんもお指摘いただいたように、
1:47:59	飛び出てる周期がかなり
1:48:03	大きく飛び出てそれがかつ多くなってくると、その平均的な地震動レベル
1:48:10	として見たときも、大きく、
1:48:13	しないといけなくなりますので、Dは大きくなる。
1:48:16	大きく設定するという芽が出てくると思いますが、今の飛び出ている周期は、ピポピポと入れる程度の範囲で収まっていると我々は考えておりますので、
1:48:27	ちょっと長周期はどうしてもこのトリパタイトで見る。
1:48:30	というのと、あと長周期どうしてもあのパルスで幅を持って飛び出るところもあって、
1:48:36	結構大きく飛び出ているように見えると思いますけれども、こういう波っというのは先ほど少し補足でも書きましたが、断層モデルは能登区長まさに表しているものですので、
1:48:48	それは断層モデルは考慮するというのを踏まえて、これぐらいのレベルで、デザインとしてはいいだろうという判断をさせていただきます。
1:49:01	はい。
1:49:02	わかりました。
1:49:04	一応冒頭で書くって言った時に、62 ケース 1 個 1 個ですかっという指示で、
1:49:09	上、考え方で確認した趣旨はですね、例えばこういうときに、何か 0.1 秒付近で 1 回上回ります。同じやつが、いや、0.2 秒でもう 1 回ありますで、何か長周期でもう 1 回上回ります。
1:49:22	何でも同じ地震は 2 イワマ、
1:49:25	なれないっていう意味で何か各地震動は、各地震動評価結果を概ね包絡
1:49:31	位、
1:49:32	あと特定の周期だけ例えばSs-A1 の例えば 19 でも 20 でもいいんですけど、それに、いやいろんな周期でS1 の 19 にも何回も何回も降雨は
1:49:44	なりました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:46	そういう比較することがないようにって比較してるんですかという紙で冒頭聞いたので、多分そこまでのものではなくてもうちょっと全体として見てるっていう
1:49:56	お話だったんで、最初に聞いたのは、そういう趣旨です何か組閣って言われると、
1:50:01	何かを一つの地震は二体地震動に対して、
1:50:06	概ね包絡なんでそんな何、いろんな周期体で一つの地震に、
1:50:12	各人がですね、に上回られるなんてことはないというそういう何か
1:50:18	ホントリの仕方をねしているのかなと思ってすみません聞いた次第でそうではないっゆうことだったんで、
1:50:24	はい。
1:50:25	うん。
1:50:27	で、
1:50:29	ここまでが、何で 77 ページが違うな、76 ページまでがそういう意味で、
1:50:40	具体的なその策定SSG一策定で、
1:50:46	77 ページからが水平鉛直比で、これは、
1:50:50	約 2 倍なのでと。
1:50:53	コントロールポイントを設定しましたが 79 で、
1:50:58	今度増幅ありの方を同じように、1 個 1 個の検討結果を包絡させて、81 ページでここも、
1:51:07	地震動、
1:51:09	断層モデルを重視して、
1:51:11	Ss-Dを設定して、倍率が 8 水中垂直、鉛直比、水平鉛直比が、
1:51:19	82 か。
1:51:21	ていう流れですかねここは、
1:51:24	実際の作業の流れなんで、
1:51:27	あとあれかな、ともギイ進藤が、ちょっとこれは最後もう 1 回、冒頭でも、この辺でましたけど、
1:51:39	一応ここは. 5 で、
1:51:44	もう一度、
1:51:46	この最初確認したのかな。
1:51:52	ちょっとここも、もう一度、
1:51:54	もう一度というかちょっとここでもう 1 点だけ確認してもらいたいんですけど。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
 発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:00	言ったような 3、86 ページからですかね、これ市これ振幅包絡線の設定としての説明なんですけど、もともと 1 個 1 個の応答スペクトルの地震動
1:52:12	根本崩落する前の、
1:52:15	1 個 1 個の応答スペクトル法の評価の時に、
1:52:19	一応ここで各 86 ページとか 87 ページとかで書かれているような知見をもとに、
1:52:25	1 個 1 個のその応答スペクトルの評価、
1:52:28	一応 M8 点を、
1:52:31	相当でやっ。
1:52:33	ていて、
1:52:35	当然この時には実際の MA、次の 87 かな。
1:52:41	Mw8.2 から 8.3 程度相当である。
1:52:45	あとはもともと mJ は M8.0 程度である程度飽和することを踏まえると、M8.5 より小さいだけと思われるけれども、一応ここは保守的に M8.5 と設定しました。
1:52:58	このその地震動応答スペクトルの地震動評価の、
1:53:02	地震規模の時にも多分こういう説明。
1:53:05	だったわけですよ。
1:53:07	で、今回実際にある程度包絡それをさらに包絡して断層モデルの地震動評価結果も踏まえて、
1:53:14	レベル感としては結構引き上げているんですけど、
1:53:18	そういったものに対して同じく、
1:53:22	包絡性継続時間ですね。
1:53:24	としては M8、8.5 で設定するというのはこれなんですけど、もともと
1:53:30	地震動評価の時に M8.5 っていうのは結構保守的に設定してたんで、
1:53:36	それを包絡したからといって、継続時間の方、
1:53:41	さらに何か計画する必要もなからうという、
1:53:44	そういう考えなんですけど、ちょっとここが当初変更 9.0 ってやっとしてかなりだから当初申請の時にも、結構かなり手紙に設定
1:53:55	で紙にっていうか長目に設定したわけですよ。
1:53:58	それを今回、
1:54:01	変えてきましたということではあるんですけど、
1:54:05	藤スペクトルのこの評価と、さらにそれを包絡させて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:10	Ss-Dを作ってるわけなんで、そこの関係で、ここは何で当初申請のM9 からここも何かM8.5 にしましたっていうのは、
1:54:20	ちょっとそこら辺の、
1:54:22	が考えだけもう1回聞かせてもらっていいですか。
1:54:27	中部電力の岩瀬です。
1:54:29	大戸スペック、ちょっと正しくアノスズキさんの疑問点を理解しているか、若干自信がありませんが、応答スペクトル法のここの評価でM8.5 にしたところに対して、少し、
1:54:44	大きくして、Ss-Dを設定しているのに対して、M8.5 の継続時間でいいかと。
1:54:51	いう問いだと受けとめました、このMはじい程度から飽和したところだとすると、もうこのM幾つかというところを応答スペクトルの方の範囲で、継続時間の
1:55:05	云々っていうところを議論するのは、もういずれにしても難しいと思ってまして。
1:55:10	じゃあ何で妥当性を示したらいいだろうといったときに、やっぱり震源に我々近いところなので、断層モデル法と比較するのがいいだろうということで最終的には継続時間は、
1:55:21	このダイソーモデル法と比較をして、
1:55:24	南海トラフの地震の、この
1:55:27	すごく西縁がある超えるような地震動を作るような時は強震動生成域がすごく効いてくるときですので、そういうようなものも考えたときに継続時間としては、この8.5 と決めたもので、妥当だということはしっかり確認しようということで今回
1:55:42	継続時間の確認ということで断層モデルを比較しておりますので、そちらでをもってSs-Dの継続時間の妥当性は確認できているというふうに考えています。
1:55:57	はい。
1:56:00	なるほど。
1:56:01	もう、この継続時間の方も含めて、ある程度、これ以上、
1:56:07	低角しても本来は、
1:56:09	本来っていう、多分実事象としては、
1:56:12	サチっているという構わないだろうという。
1:56:15	そこがあるわけですねはいはいはい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:56:18	その中包絡させたからさらに包絡してもっと長くしてっていうふうになるかということ、そもそもが、
1:56:24	多分、
1:56:25	これ多分は 90 ページとかでも、もともと書いてますけど、
1:56:29	こういうようなところもあるので、
1:56:31	これ以上
1:56:33	何とか体制の適用範囲を飛び越えるような計算があるわけじゃなくて、そこは断層モデルはとの比較で、妥当性っていうのを最後チェックしましょうとそういうことですかね。はい。
1:56:46	うん。
1:56:47	ました。
1:56:54	ソネ先はいいと。はい。
1:56:57	で、次が、断層モデルの結果で、101 ページからですかねちょっとこれはちょっと 101 ページの冒頭でその増幅ありなしがまざってるので、
1:57:07	ここも少しわかりやすくしてもらおうとして、
1:57:14	これは、
1:57:17	102 ページは、それぞれだからこれだから 162 ケースとSs1 を並べましたと、162 ケースを、内陸地殻内、プレート間海洋プレート内それぞれ色分けして並べました。
1:57:33	上回ってる 62 ケースが次のページで、青線で 62 ページですと、
1:57:40	ここで落ちたものというのは、104 ページで、きちんと絶対上回ってませんというのは、ちゃんと確認ができてますと。
1:57:51	いうのを出していただいたと。はい。
1:57:53	次が 105 ページでこの中で、これがやっぱり赤、
1:58:01	赤で、
1:58:04	赤線が最後残るSsとして、
1:58:08	Ss1-1 から 1-23 として設定されるもので、青線が、
1:58:13	エラーバー一部上回ったんだけど、基準地震動としては、
1:58:19	いわゆる包絡線というか、何ださっき最初忘れちゃったなど。
1:58:24	全体いわゆる、
1:58:26	大学線が外郭線、で比較して落ちたもの。
1:58:33	ということですね。はい。
1:58:40	段階って何かこのグレーのやつっているんですけどなんかもうこれも前のページで落ちたやつなんですよ。
1:58:48	いやアノは手順をしたって何か 62、2 ケースだけの話を、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:52	105 ページで区画すると何かまたグレーのものが残ってて、
1:58:57	グレーなんでもなくてもあんまり変わら
1:59:00	チームで寝たものでございます先ほどの何ページ。
1:59:04	概要の辺の、
1:59:06	見方を説明してるときに、
1:59:09	中、
1:59:11	15 ページ。
1:59:13	2、いや、
1:59:15	黒い黒い、
1:59:18	162 ケースの中からこう絞ってったっていうそれぞれの、
1:59:22	選手をちゃんと載つけ、
1:59:25	ところかなという意図で入れてますけど、鈴木さんおっしゃる通りちよつと、
1:59:29	わかりにくいっていうか 104 ページで落ちた日、
1:59:34	野川香田っていうのを出してるんで、105 はないほうがわかりやすいかなと思いつつ、一応 106 にその結果も載せているので
1:59:47	どう。
1:59:48	グレーなんでね背景色ではあるんですけど、
1:59:53	一応これ、
1:59:55	100、103 ページで、一応その第一次リーグというかヨセンがあって、一部周期体で上回ってるかどうか選別策ですよ。
2:00:04	予選をしたのが 104 ページで、
2:00:07	ただその残ったものに対してやっているのあんまりここでグレーの話って出さなくてもいいんじゃないかなというふうにおっしゃる通りですとあってですね。
2:00:15	さら 2 なんか一次予選を突破したんだけど、
2:00:20	落ちたものが青で、その青というのは 106 ページで、外殻線を下回ってるんですけどいう。
2:00:27	話なのかな。
2:00:30	どうしますかねえ。
2:00:35	はい。
2:00:54	すいませんちょっと 1 人だけ聞いてしまう。
2:00:59	SS。
2:01:01	Dシリーズも流れとしては一緒だし特定せずも、
2:01:05	流れとしては、特定制度ねそんなに、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:01:09	数が多いわけじゃないんで、何ですか。
2:01:12	もうちょっとで終わり。
2:01:15	はい。
2:01:18	特に補足は、前回から変えてないですかね。
2:01:32	中部電力の石川です説明の途中で入れさせていただきましたけども、
2:01:37	補足説明資料 02 のですね最後の 167 ページ 168 ページ。
2:01:42	の方で、
2:01:44	本資料の方ですと江藤スペクトル法に基づくSSG-D当間最大速度が最も大きいケースの比較速度は県の比較を、例示として示しておりますけども、
2:01:55	それ以外にですね継続時間が最も長いケースと最も短いケース。
2:02:00	ていう比較もですね、加速度時刻歴は県の方で、そういったケースの比較をやっておりまして同じようなパッケージで 168 ページに資料の方を追加してございます。
2:02:09	それ以外の補足説明書については基本的には変更ございません。
2:02:15	はい、わかりました。
2:02:19	すいませんちょっと 1 人だけ確認を進めてしまいましたが、
2:02:26	ただ、
2:02:27	どうでしょうかね。
2:02:29	いわゆる、ちょっとまず前半の
2:02:33	ちょっと免震の話に入るまでの 40 ページぐらいまでですかねこの策定方針のところ、
2:02:40	何かある方おられますでしょう。
2:02:44	細かい結果の方とちょっとそのあと免震の話だと細かい 1 個 1 個の 70 ページ以降の、
2:02:50	実際の選定結果に近いようなところですかね、ちょっと三つに区切りますけど、
2:02:56	まず策定方針みたいなところで、
2:03:00	ありますでしょうか。
2:03:38	規制庁の鈴木ですさてと、一応一通りすいません私の方で全体は確認はしましたけれども、
2:03:47	一応まず戻ってですね、いわゆる基本方針とか、顕著な増幅踏まえた地震動の策定方針の明示に入るまでですね、
2:03:57	のところ、
2:03:58	ちょっとここはという確認をしておく点ある方おられますでしょうか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:04:08	はい規制庁佐口ですけど、1ポツの概要のところ、
2:04:14	いくつか本当は確認させていただきたいんですけどその中でもちょっと一番、
2:04:18	大きいところ、
2:04:21	5ページとか、
2:04:25	どういうふうな基準がどういう要求があって、ガイドでどういう記載があってそれに対してどういうふうに策定するとかそういうのをまず追加していただいてその点は、
2:04:37	どういうふうに対応してるか、いいか悪いかは別としてわかりやすくなったと思いますこれはまずありがとうございました。で、
2:04:43	これはちょっと以前から今日2回目のヒアリングでしたので、前は大きな方針のところをいろいろ確認しましたけど少し細かいところも含めて確認したいのが、まず6ページですね。
2:04:56	6ページの、
2:05:00	これ策定方針で、ちょっと鈴木議員の方からも幾つか確認ありましたけど、
2:05:06	下の黄色の
2:05:10	箱の中の、
2:05:12	二つ目の、
2:05:13	丸のところの最後のところなんですけど、
2:05:16	南海トラフの最大クラスのプレート間地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を重視するとされているところなんですけど、
2:05:25	これは、
2:05:27	ちょっともう1回どういう、
2:05:29	意味なのかっていうのを、
2:05:32	確認させていただきたくて、そのすぐ前を見ると、
2:05:37	温暖化トラフの最大クラスの、
2:05:40	プレート間地震が短周期。
2:05:42	長周期ともに、敷地に地震動への影響が大きく、
2:05:48	まず震源が敷地に近くその破壊過程が地震動評価に大きな影響を与える
2:05:54	考えられる地震であることからって理由なんですけど。
2:05:58	おそらく、
2:06:00	この重視するっていうので、何か特別なことを、
2:06:05	されているのか、いないのかこの断層モデルを用いた手法で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:06:10	ここまでちょっと確認をさせて
2:06:15	中部電力の岩瀬です。重視すると言ってる時に断層モデル法の中で、何か特殊なことをやってるのかというそういうご質問でよろしかった
2:06:28	特に、
2:06:29	敷地近傍だということの不確かさの考慮をしっかりとやったというのありますけれども、計算とかそういったところで、特に
2:06:39	重視するという言葉で、何か不確かさの考慮以外に特殊なことをやってるといことはございません。
2:06:45	この基準地震動を策定するとか、地震動評価を見るというときに、この敷地近傍だと、
2:06:52	応答スペクトル法だけで表現できないところもあるので、断層モデル法の方をしっかりと見なさいという趣旨で重視するというふうに記載しているつもりです。
2:07:04	はい。規制庁佐口
2:07:06	そうすると多分ガイドとかに記載されているので、
2:07:09	ようにです。
2:07:11	そのあとも今、今、村瀬さんのご説明だと、敷地に近いのでっていうちょっとキーワードがあったと思うんですけど、
2:07:18	そうすると、これまでの審査の
2:07:21	いろんな実績でいうと、多分不確かさの重畳っていう話がある。
2:07:27	で、じゃあ、そういうことをプレート間の中でやっているかという、それはされてないというご説明だったので、ここって本当にこのオオキサイでいいの。
2:07:37	っていうですね。
2:07:38	何かこれって純粋に、
2:07:41	何かこのサイトっていうのは、その短周期も長周期も、この
2:07:46	いわゆる南海トラフのそのプレート間地震の、
2:07:50	地震動っていうのが支配的なんですよってただ言いたいだけっていうんだったらまだわかるんですけど、今こういう書き方をされていると、じゃあこの断層モデルを用いた章で、
2:08:01	何か特別なことをしているのかとか、実際に多分されているのはこの後にあった、なんでしたっけ。
2:08:08	ごく短周期の部分とかを含めて、
2:08:12	断層モデル、
2:08:14	の結果のその形状が同じような形、形状を踏まえてとあって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:20	多分、
2:08:21	13 ページですね、まさしくこのことを、
2:08:25	おっしゃっている。この重視するという意味合いという意味するところってというのは、こういう断層モデルを用いた手法による地震動評価結果の形状等も踏まえて設定すると。
2:08:37	いうところを、
2:08:38	いわゆる重視すると。
2:08:40	いうことをもって、御社は表現をされていると。
2:08:44	そういう何か後ろを見ていくとそうなのかなと思ったんですけどそういうことでよろしいですかね。
2:08:56	中部電力の岩瀬です。応答スペクトル法の図Dを設定するところについて重視するって言うてるのは、ご指摘の通りです。
2:09:05	あとプレート間地震の地震動評価に関しては、アスピリティをし、SMGAを直下に置いた上で、短周期レベルの不確かさを考慮してかつ、連動もその連動対象も全部不確かさを考慮しているものを見てますので、
2:09:19	かなり厳しめの評価をしているというふうには考えてございます。
2:09:25	はい。つまり、この 6 ページと、
2:09:28	13 ページって、私は少なくともリンクをしているとっていて、だから結局この 6 ページで言うところの先ほどから、
2:09:36	この地震動評価結果を重視す
2:09:38	って言うてるのは、
2:09:40	実際にやってるのは、
2:09:42	プラスアルファっていうわけではないんですけど本来だったら、
2:09:45	そういうことではないんだけどちょっとプラスアルファとして 13 ページのような形で、少し、
2:09:53	ていうこの設計応答スペクトル法ですね、その設定の時に考慮をしていると。
2:09:59	いうことで書かれているのかなとか思ったりもするんですがその一方で、
2:10:04	これって、
2:10:06	プレート間地震だけなんですかねっていうのと、
2:10:10	じゃあ何でそのプレート間地震っていうのはこのごく短周期がちょっとこう大きくなるとか、
2:10:17	そういう傾向にある。これが、
2:10:20	要は御社のその浜岡で言うところの何か特別に、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:10:26	こういう得特徴、特徴があるからそうしているのか。
2:10:31	単なる、これはあくまでも、
2:10:34	新藤評価結果の結果がそうになっているから、
2:10:38	しかもそのプレート間地震だけで
2:10:42	じゃあ何で内陸地殻内とか、
2:10:44	海洋プレート内はそうっていないのかとか、そういうことも、
2:10:48	多分書かれていなくて、私がうちの方からずっと見ていくと、
2:10:52	多分ですね。
2:10:54	これって、
2:10:59	プレート間地震だけじゃなくて例えば 48 ページなんか見ていただければと思うんですけど、
2:11:04	これ一番左の内陸内、
2:11:06	内陸地殻内地震も、一番右の海洋プレート内地震も同じように、この 0.22 秒、0.02 秒のコガ
2:11:14	ちょっと上がってるんですよ。
2:11:16	そう考えると、あくまでもこれって、プレート間地震特有のものじゃなくて、
2:11:22	御社のこの
2:11:24	浜岡というサイトの特徴なのか、それとも、
2:11:28	単なる計算上の、
2:11:31	何かその設定によってこうなっているのかって言うのもあるんですけども、あくまでも、今 10、
2:11:39	3 ページに、
2:11:40	あるような、この
2:11:42	うん、地震の評価結果の形状等も踏まえてと言ってますけど、やっぱりあくまでもこれは、
2:11:48	地震の特徴とかじゃなくて、ケース、あくまでも計算結果。
2:11:53	によるもの。
2:11:56	その特徴を踏まえることが、
2:11:58	なぜこの
2:12:01	最初の 6 ページの、
2:12:03	南海トラフの最大クラスクラスのプレート間地震の断層モデルを用いた手法による、
2:12:09	地震動評価結果を重視すると繋がってくるのかっていうのが、
2:12:14	私にはちょっと理解できないんで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:12:17	もしそこを、
2:12:19	ご説明をいただきたいのと、
2:12:22	ちょっと資料上やっぱり見えないので、そこはちょっと、
2:12:27	見えるような形にはまずしていただきたいんですけど。
2:12:31	ちょっといかがでしょう
2:12:34	はい。中部電力の郷清です。
2:12:36	48 ページを見ていただいて、
2:12:39	低確認いただきましたけれども、短周期のところの形状に関してはご指摘のように統計的グリーン関数法で、当社の地盤モデルを用いると、基本的にこういう傾向になるというところを反映していますので、
2:12:52	当然プレート間地震だけの特徴ではないというのはご指摘の通りです。で、もともとプレート間地震の地震動評価結果の断層モデル法を重視すると、13 ページで書いてるところには、
2:13:06	当然、
2:13:08	敷地に近いということもありますけれども断層モデル法の結果が全体的に大きいのがプレート間地震だという要素も入れて、
2:13:17	これを特に見るというだけ書いていただけでございますので、ちょっと今プレート間地震の震源としての特徴として、
2:13:27	これを地震動レベルの議論をしているのか、それとも地震動評価の手法の方から出てる形状の話として断層モデル全体の中で、
2:13:38	出てる話なんだけれども、
2:13:41	プレート間地震の結果を特に見て形状を反映してるということなのかというところが書き分けられてないっていうところは認識しましたのでこの辺ちょっと記載の適正化を。
2:13:50	図りたいと思います。
2:13:53	はい。規制庁佐口ですんで、ちょっと関連してなんですけど、ちょっとクドウ行です。
2:13:58	けども、敷地があごめんなさい呻吟が敷地に近くっていうと、当然ながら、
2:14:03	プレート間地震というのは近い。
2:14:06	と言いつつも、
2:14:07	当然ながら内陸地殻内って、
2:14:10	その上に載ってるので、
2:14:13	内陸地殻内地震の時も、いろいろ幾つかやりましたけど、
2:14:18	かなり

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:14:19	他も近いのってたくさんあると思うんですね。
2:14:23	プレート間地震より、
2:14:25	距離的に言えば、
2:14:28	だから、
2:14:28	やっぱりこのなんでしょうね。
2:14:31	震源が敷地に近く、
2:14:35	その破壊過程が云々って、
2:14:37	これって、
2:14:38	ガイドでもいろいろ記載があったとして、
2:14:42	近いとやっぱり
2:14:44	応答スペクトルじゃ表現し切れない部分もあるよねみたいなそういうのもあるのかもしれないんですけど、
2:14:50	どうもこの文言と、
2:14:52	今南海トラフの最大クラス、要はプレート間地震の断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を重視するっていうのが繋がらなく、
2:15:01	もう少し言うと、
2:15:04	牧許可の審査の中で、これもその審査実績としてですね、
2:15:09	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果を重視するってことは、
2:15:14	結局、応答スペクトル。
2:15:19	ねえ。
2:15:20	設定したSs-DなりS1との関係って考えると、必ずしも
2:15:27	それを超えたものだけ、
2:15:30	選んでおけばいいという話でもなく
2:15:34	本当にじゃあ今そういう、
2:15:36	ことをされているかっていうと、
2:15:38	むしろではそういうことをされてないわけで、
2:15:41	やっぱりちょっとここが、
2:15:43	どうも内容と、それから書いていることを実際に策定するかというと、
2:15:48	何かちょっとそこがあって、
2:15:52	そうするとやっぱり一番これ最初のところなので、
2:15:54	ここがきちんとですね。
2:15:57	全体の論理構成も含めて、本当に適切かつその適正なことが書かれているかっていうのを、
2:16:04	もう1回確認をしてですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:16:07	記載を適正化するなりしていただきたいと。
2:16:11	中部電力の岩瀬ですご指摘ありがとうございますちょっと、我々の言葉遣いも含めて、少し適正ではないところがあるという、
2:16:21	ゴトウ、今わかりましたので、少しどの言葉を使って我々が考えてくる表現するのかいいかも含めてちょっと再度整理をさせていただきます。
2:16:33	はい。規制庁佐口です。
2:16:35	そこはよろしくお願ひしますね引き続きですね 11 ページなんですけどこれ、
2:16:40	当然、我々はわかっています。
2:16:45	これまで審査に携わっている
2:16:48	審査官、
2:16:49	はわかっているんですけど、
2:16:51	これやっぱりいきなりですね。
2:16:53	長周期で現地の増幅を考慮しない地震動評価結果の方が大きいケースがあるっていうのが、いきなりこれ出てきても、多分これ、
2:17:04	一般の方とかがわかるかなあというところですね。
2:17:11	なんで増幅されて、
2:17:13	いるものを考慮してるのに増幅してないものが大きくなるのっていうそれは、ちょっとこの吹き出しのところで下書いてありますけど、
2:17:22	この短周期のみっていう、
2:17:24	この短周期のみっていうのもやっぱり、こっからここぐらいまでを増幅させているので、
2:17:30	だから長周期っていうのは、顕著の増幅が見られないものも、
2:17:36	あるんですよというか、増幅を考慮しない場合の方がちょっと大きくなるような、
2:17:41	ケースも出てくるんです。
2:17:43	プラスアルファとして、
2:17:45	顕著な、
2:17:48	増幅を考慮する場合ですね、これは増幅を考慮しない場合のケースと全く一緒じゃなくって、別のケースなんで、
2:17:55	というのも、
2:17:56	多分これって、
2:17:58	うん。ここだけ見てたらわかんないかなっていう気がしたので、
2:18:02	少なくともこのページに、
2:18:05	何かこう、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:18:06	入れ込むことはなくても少なくともどっか 2 行飛ばしてその参照するなりして何でそういうことが起こるのかというのがね、わかるような形で、
2:18:17	何かそこが整理ってできないんですかね
2:18:24	中部電力の湯浅です。34 ページに、その疑問を解消するべく、作ったページが一応あるんですけども、
2:18:33	それをわかっていただくために、少し説明したように増幅係数とかも含めて、表計算方法を追記させていただいたんですが、確かに冒頭のところとのリンクがちょっと足りないですし、
2:18:45	もしかしたらもう少し追記できるかもしれませんが、冒頭のページで、この内容が少しでもわかっていただけるようにつ、後ろに詳細が書いてあることがわかるように修正させていただきます。
2:18:59	はい。規制庁佐口ですその点もよろしくお願いします。あと 15 ページです、これは鈴木からもありましたけど、
2:19:06	先ほど私も少し申し上げましたけど、何でこのケースの数なのっていう
2:19:12	例えば、普通、普通に考えたら、
2:19:15	増幅しないものとするものって、しない。
2:19:20	2 倍しないものの二倍が、
2:19:23	するものなんじゃないの。
2:19:25	多分一般の人が思っ
2:19:27	ちゃう。
2:19:28	かなと思って何年、何で倍になってないのっていうのが、結局その、
2:19:35	ケース。
2:19:37	がちょっと違うというですね、プレート間地震なんてまさにそう
2:19:41	プレート間地震って、当然その増幅する方向にSMGAあるのにもかかわらず
2:19:46	なんでこれ倍になってないの。
2:19:48	で、
2:19:49	単純に思ってしまうんで、
2:19:51	そうすると、いや、ちょっとそれは増幅しないものとするもので少し
2:19:56	そもそものSsSMGAの置き方がちょっと違う
2:20:00	そういうのがあって、若干こうケースが倍にならないんだよ。
2:20:03	なんかその辺もですね。
2:20:05	含めて、何でこのSSにはこのケース数でいいんだっていうところですね。
2:20:10	Ss1 は 160 なのに、何でSsにはその 162 の場合じゃないの。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:20:16	ていうですね。
2:20:18	その辺も何か後ろに飛ばすなり何かしてですね。
2:20:21	きちんとわかるように、やっぱりしていただきたいと思い
2:20:26	よろしいですかね。
2:20:28	中部電力の岩瀬で査定、先ほどの指摘と、ある意味一体なご指摘だと思いますので両方合わせて、
2:20:36	後ろに飛ばすかも含めて、ちょっと
2:20:41	ケースの、
2:20:42	数の違いがちゃんとわかるようにというご趣旨だと思いますので、それも含めて整理させていただきます。
2:20:53	はい、規制庁ダイゴ佐口です
2:20:56	じゃあ一番ちょっと最後なんですけど、
2:20:58	免震の話ですね免震構造の 18 ページとか、
2:21:02	それから 19 ページ、20 ページなんですけど先ほどこれも、
2:21:08	スズキの方から、
2:21:11	確認したことをちょっとかぶるかもしれない。
2:21:15	けど、
2:21:15	結局その、
2:21:17	例えば 18 ページのどこでもいいですけど①から⑤まであって、
2:21:22	この順番もそうなんですけど、
2:21:25	結局、
2:21:27	本当に必要なものって、
2:21:29	これ。
2:21:30	①から⑤ってこれ、全部必要なんですかね。
2:21:34	それとも、ここまでは確実に必要で、あくまでもそれ以降は、確認でいいんだよというものなのか、それとも全部本当に必要で、全部を使って、
2:21:45	この基準地震動も策定についてですね、その免震用のです。
2:21:52	見なきゃいけないのか。
2:21:53	いうところ、ちょっともう 1 回教えてもらっていいです
2:21:59	中部電力の岩瀬です。
2:22:01	衛藤。
2:22:02	必要というところの定義がなかなか難しいんですけども、基本的に新しい、
2:22:07	検討があるところ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:22:09	新しい検討を確認いただけなきゃいけないところという意味で言いますと、
2:22:14	ここで言っている、①の周期の話は当然なのでそれですけども②のやや長周期に着目した検討用地震と地震動評価の確認は、先ほど鈴木さんからありましたけれども、
2:22:25	ここで書いてある距離は離れてるが規模が大きい地震の確認という項目以外については、既往資料の確認ですので、
2:22:34	それについては、新たな話はないという形になります。
2:22:38	③の必要に応じ、別途これは当然、新しくやらなきゃいけないのでここ新しく
2:22:45	④の、この応答スペクトルと継続時間の検討も確認ですけども、出ているものについては既往の出ている地震動評価結果を、別な目で確認いただくという程度のことで、
2:22:56	確認内容としてはあと一つ新しいのは国交省の技術基準のところという形になります。
2:23:05	はい。規制庁佐口
2:23:07	ちょっと私の聞き方というのか質問がよくなかったかもしれない
2:23:13	結局この必要に応じて、他の施設とは別に基準地震動を策定する必要があるのかなのかという、
2:23:23	その判断に対して、
2:23:26	③は当然必要なんですけど、この①から⑤の、まずどれが必要なのか。
2:23:33	全部必要なのか。もちろんその必要だったら必要でいいですし、
2:23:37	それと、
2:23:38	その、それに対するその確認の仕方について、何かこう、順番も本当にこれでいいのかどうかっていうところを、
2:23:46	お聞きしたかったんですけど。
2:23:54	中部電力の岩瀬若干今答えに困ってるところはあるんですけども、
2:24:00	実際に当然確認はした上で判断、他の項目を判断してますが、一番大きいのはやはり①であった施設の保有周期のところ、大きくは、
2:24:11	基準地震動を別途作るかどうかというのを判断しております、
2:24:16	それ以外がまた確認の結果足りないということだとまた元に戻って、必要に応じというところに別途、地震動評価を通じて別途地震動を
2:24:27	免震を基準地震動をつくれれば、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:24:30	作らなきゃいけないかっていう問題は出てくるかもしれませんが、基本的に固有周期、
2:24:35	の段階、
2:24:37	ぐらいで比 5 秒までだということなので、基準地震動としては、耐震設計と同じものだろうという、いいだろうという判断をした上で、
2:24:47	できるとは思っているんですけども、それ以外の②とか④⑤っていうのは、
2:24:54	それが免震設計用途別に作ったものが否かにかかわらずイデにしろ、確認が求められているものだという位置付けだと考えてございます。
2:25:07	はい。規制庁佐口です。とりあえず
2:25:10	今ご説明されたことについてはどういう説明があったかって言うのは聞きおきましたので、
2:25:18	本当にこの順番でいいのかっていうも含めてですね。
2:25:22	もし全部必要だったらやっぱり丸さんというのは一番最後に来るはずなので、
2:25:28	その辺も踏まえてです
2:25:30	もうちょっとわかりやすくそこは示していただき
2:25:33	よろしく願い
2:25:34	中部電力の岩瀬です。都丸さんのところが何を根拠に、どの検討の何を根拠にこの判断をしているかが、しっかり整理できてないということだと思ひ、まず、
2:25:46	だと思ひますので、そこをまず明確にした上で順序についても、それを踏まえて検討したいと思ひます。
2:25:59	はい。
2:26:00	事務所、
2:26:03	規制庁の名倉です。
2:26:06	佐口の方から少し話があった中に関連するんですけど、
2:26:11	私も何かプレート間地震にいきなり絞り込んでいて、そこが理解できなかったんですが、内陸地殻内地震も結構敷地に近いものがあるという不確かさをパラメーターで振っていて、
2:26:24	断層モデルはを重視するといった時なんで、
2:26:27	内陸地殻内地震のところも分析がなくてそれを考慮してないんだらうっていうのが、この資料も見ていく中で一番大きな疑問でした。
2:26:36	ちょっとお聞きしたかったのは、
2:26:38	水平動の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:26:41	応答スペクトル
2:26:43	に基づく手法の評価ってのは水平方向がかなり多くて、鉛直方向の評価ってあんまりこう出てこないんですけど、
2:26:51	耐専スペクトルっていうのは水平鉛直両方評価できるっていうことがミソだったと思うんですけどなんで、
2:26:57	水平ばかり出てきて、
2:26:59	鉛直は2分の1という比率のことしか触れていなくて、
2:27:04	本来の耐専の評価でどうなるかっていう話が、
2:27:09	例えばプレート間とか内陸地殻内とか、そういったところでどうしてるのかってのは全く見えてこないんですがそこら辺はどうなってるんでしょうか。
2:27:17	むしろ内陸地殻内地震も、断層モデルはと比較をして、
2:27:22	水平鉛直比率をちゃんと出して、どうなるかっていうことも検討した上で、
2:27:29	やっているのか、そういったところも含めて、プレート間が支配的。
2:27:35	鉛直でも支配的になるから、基準地震動としては内陸地殻内、
2:27:41	としては応答スペクトルによる地震動評価でも結果出てこない。
2:27:45	ということなのかそこら辺が何かちょっとよくわからなかったんですが、
2:27:49	過去の資料を見てもあんまり鉛直方向の評価をしてる事例ってあんまり実はなくて、
2:27:56	評価してる事例を見てもう大体2分の1ぐらいの比率のスペクトル使ってるんですけど、これって耐専のごく金使ってるんですか本当に。
2:28:07	耐専のごく金を使って、
2:28:10	本来やるべきものに対して、本当にその方水平に対して鉛直率2分の1になってるんですけど。
2:28:21	中部電力の岩瀬です。衛藤。
2:28:23	耐専スペクトルの評価自体は耐専スペクトルの
2:28:27	そのものの比率で素直にやっていますので、2分の1ニワな
2:28:33	応答スペクトル法の結果はなっていないと思います。
2:28:36	断層モデル法の結果は、ご指摘の通り内陸地殻内地震も含めて、
2:28:41	全部が全部、
2:28:44	確実にそうなるわけじゃなくて特性はありますけれども、プレート間地震の水平と鉛直と同様に、応答スペクトル法と傾向が違ってくる所はあります。
2:28:59	オノ名倉です。それでは内陸地殻内地震については、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:29:03	2分の1という比率じゃなくて3分の2とかの比率になってるっていう理解でよろしいですね。
2:29:10	中部電力の岩瀬です。応答スペクトルの方の結果は、基本的に、そのあとの増幅率の掛け方の問題はありますけれども、
2:29:20	今言われてるのは、応答スペクトルの方でよろしいですか。
2:29:25	はい。過去の資料で、応答スペクトル法による結果を見ても、
2:29:30	何か一番上ので押さえると、2分の1ぐらいにしかになってないような感じがしたので2分の1を使ってるんじゃないかなと思ったんですけど。
2:29:40	そこはじゃあ三分の2ちゃんとなってるっていう理解でよろしい。
2:29:45	はい。基本的に、耐専の使っている比率から書いてございません。
2:29:55	長名倉です。
2:29:57	ちょっとこれ取りまとめ資料を今後見ていく中で、
2:30:00	いろんな断層による評価の結果っていうのは断層モデルとどうせ整合してるのかってのよく見ていきたいと思います。
2:30:08	結構断層モデルによる結果とほぼ整合したレベル感になってるものと、
2:30:14	何か
2:30:15	不確かさ結構降ってる割にそういうレベル感になっていないものもちょっとあって、
2:30:19	僕は何か少し違和感があるので、それについてはちょっとまた今後聞いていきたいと思います。別の機会かもしれない。
2:31:52	規制庁スズキですけど、
2:31:54	うん。
2:31:56	と、今の部分はですね、いわゆるその震源を特定して作成する地震動って線、
2:32:03	1011回ですね、2022年4月15日、この時には、結局応答スペクトルの地震動評価結果と断層モデルの地震動評価結果同じにボンと載ってるだけで、
2:32:15	その段階では、ややこういう特徴こういう配慮が今後必要とかこういう特徴の違いがあるとか、そんな話が何も書いてなくて、
2:32:24	今回実際やってることは書いてあるんですけど、何かその間が、
2:32:28	多分抜けてしまっているのかなあと。
2:32:32	何かその分析というんですかね。
2:33:07	そう。
2:33:10	中部電力の岩瀬です。プレート間地震を持ってきて2分の1に設定したという、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:33:18	うん、というよりは、断層モデル法の結果に見て、応答スペクトル法のレベルをDデザインレベルを
2:33:28	決めていくと、2分の1ぐらいに
2:33:31	また、当たり前といえば当たり前なんですけど断層モデル法と整合するような、
2:33:36	ものにしましたと、いうことなので2分の1を決めましたという形では今考えては、
2:34:33	中部電力岩瀬です。今までと言われているのは、Ssのデザインはに対して、
2:34:42	新規制基準より前のSsのお話ですか。
2:34:46	名倉です私が聞いているのは、
2:34:50	申請後の審議の中で、
2:34:54	応答スペクトルによる地震動評価ってのは断層モデルの地震動評価と並行して、
2:34:59	震源を特定して策定する地震動の中で人どう評価してると思うんですけど、
2:35:04	その中で水平鉛直の応答スペクトルとか断層モデルあと重ね合わせて示してるものに関して、
2:35:10	それは、今までどうしていたのか。
2:35:14	そこは情報としてどこに載ってるんですか。
2:35:17	その設定は、
2:35:19	それに対して今回、
2:35:21	それをどう変えたんですか。
2:35:24	プレート間だけ、そこは代表さしていじったってことなんですか。
2:35:31	中部電力の岩瀬です。耐専ノダの方法の評価についてはノダの方法で、示されている水平鉛直比を使っていますので、ちょっとその辺を使っているということは、確かに、
2:35:46	ちょ、ちょっと確認しますが資料に、少なくともまとめ資料には載せてなかった気はしますので、
2:35:52	そこら辺はちゃんとわかるようにしたいと思います。
2:38:37	規制庁スズキフクマアノ。
2:38:40	なのでですね、ちょっと少し、このもともとの地震動評価のときにどうだったのかで、
2:38:46	それをどうやって配慮していくと最終的なこのSs-DIにいくのかっていうところが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:38:52	本当少しももとの分析が飛んでしまっているのかなというのがあるのでそれなので、下ほど来から 74 ページから以降ですかね、冒頭の方針もそうなんですけど、
2:39:05	どうやってな、なぜこれをやってなぜこういうこれをするようになったんだらうとかですね、水辺長期も含めて、
2:39:12	もう少し話が飛んでしまうかなというのが、
2:39:15	これはやっぱり少し迷子になるね我々が、
2:39:19	ということで、少しそこら辺もですね、
2:39:24	資料の方は、わかりやすくしていただければと思います。
2:39:29	では、少しちょっと時間少しオーバーしましたがけれども、なんでちょっともう 1 回ここがわかりにくかった部分ですね資料の方は直していただいて、
2:39:41	必要があればもう 0.5 回ヒアリングをしてということも考えますので、
2:39:47	まずは資料の修正のほうを例会を行ったし、
2:39:52	ます。はい。
2:39:53	特に中部電力の方から何かありますでしょうか。例えばヒアリング終了しますけど、中部電力天野でございます。ありがとうございました。ちょっとやっぱり、最後基準地震動を決めるところ。
2:40:05	今までやってきたことの整理とか、少しお伝えできてないところが、
2:40:10	今日ご確認いただいた中で、よく良くわかりましたので、迅速に資料修正して、
2:40:16	2.5 回もう 1 回ヒアリング、よろしくお願いいたします。
2:40:21	はい。
2:40:24	いや、よろしい場合は以上でヒアリングを終了します。
2:40:27	はい。お疲れ様でした。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。